

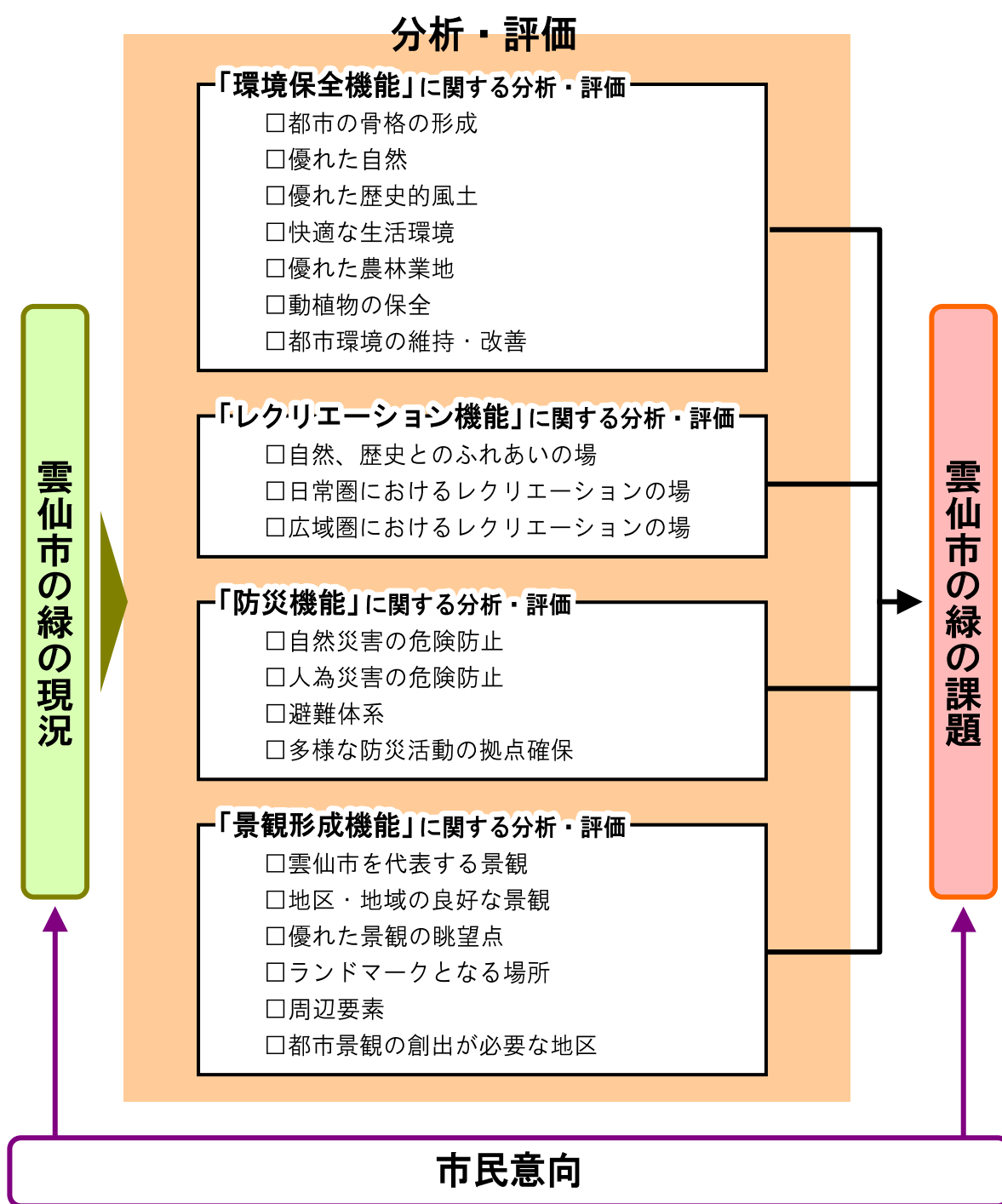
第2章 緑のまちづくりの課題

1. 緑の分析・評価

本市の緑は、「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」、「景観形成」の4つの機能を担っており、これらの緑がネットワークを形成することによって、その機能は効果的に発揮されます。

本市では、本市の緑の状況や、緑が持つ「生産」、「観光」要素、緑に関する市民意向を踏まえながら、以下に示す評価ポイントに基づき緑の分析・評価を行います。

なお、「環境保全」、「レクリエーション」、「防災」、「景観形成」の評価項目は『緑の基本計画ハンドブック（社団法人 日本公園緑地協会発行）』を参考としています。



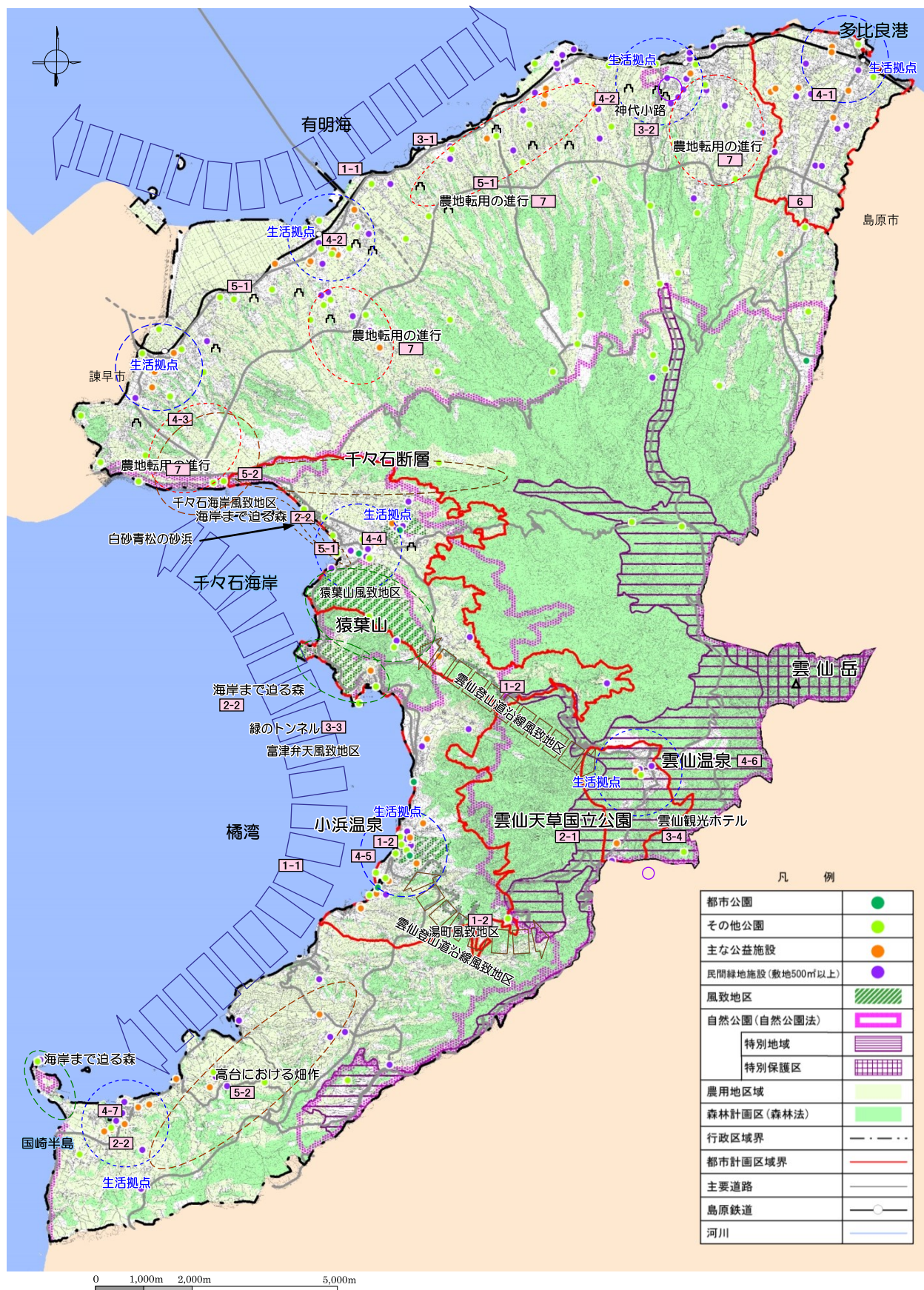
(1) 環境保全機能に関する緑の分析・評価

環境保全機能を有する緑地については、「都市の骨格の形成」、「優れた自然」、「優れた歴史的風土」、「快適な生活環境」、「優れた農林業地」、「動植物の保全」、「都市の環境の維持・改善」に着目し、該当する緑地を抽出し分析・評価します。

評価項目	分 析	位 置
都市の骨格の形成	■有明海と橘湾のそれぞれに海岸が伸びている。	1-1
	■自然公園区域と風致地区がネットワークを形成し、雲仙岳と千々石・小浜の海岸部を環状に結んでいる。	1-2
優れた自然	■雲仙岳を中心に山間部の多くが雲仙天草国立公園に指定されている。	2-1
	■橘湾側では千々石断層や猿葉山、国崎半島など海岸付近まで森が迫っており、有明海側では平野部に入り込んだ谷間や丘陵地に森林が広がるなど、生活行動圏の間近に自然環境が点在している。	2-2
優れた歴史的風土	■有明海側の平野部には城址が広く分布しているが、石垣の一部が残るのみであり、特に歴史的資源としての保存・活用はなされていない。	3-1
	■神代小路重要伝統的建造物群保存地区では、城址の森や屋敷林、生垣などの豊かな緑を有した歴史的街なみを形成している。	3-2
	■近代化産業遺産でもある旧小濱鉄道の線路跡は、年月とともに自然にとけこみ、緑のトンネルなど特色ある歴史資源となっている。	3-3
	■国の登録文化財である雲仙観光ホテルは、歴史的価値の高い建造物を敷地の豊かな緑が取り囲み、雲仙天草国立公園の環境と調和している。	3-4
快適な生活環境	■国見では、一部に建物の密集化がみられるものの、戸建て住宅中心の構造によって、まちなかは庭木によって緑が確保されている。	4-1
	■瑞穂、吾妻では、建物の密集度は低く、農家を主とした戸建て住宅が中心であり、農地の混在もあり緑の環境を確保している。	4-2
	■愛野では、中心部において建物の密集がみられるものの、公共公益施設が集中立地することで、一定の緑を確保している。	4-3
	■千々石では、港付近で緑が不足しているものの、地区の中心地には多くの農地が混在しており、緑と調和した生活環境を確保している。	4-4
	■小浜温泉では、国道57号の街路樹やホテルの庭などで緑を確保し、背後の住宅地も、庭木などで緑の環境が保たれている。	4-5
	■雲仙温泉は雲仙天草国立公園内にあり、ゆとりある敷地利用と緑化が誘導されている。	4-6
	■南串山の港付近は、周囲を自然に囲まれているが、平坦地が少なく敷地が制限されるため、身近に緑を確保することが困難である。	4-7
優れた農林業地	■有明海沿いや千々石海岸背後の平野部では水田が広がっている。	5-1
	■愛野の丘陵地や海岸部近くまでせまる南串山の高台では、雲仙市の特産品であるジャガイモ畑が広がっている。	5-2
	■所々で耕作放棄地や施業放棄森林がみられる。 ■害獣による農業被害等が発生している。	—
動植物の保全	■標高1,359mの雲仙岳(普賢岳)から有明海、橘湾まで様々な環境を有することで、山林や河川、農地に多種多様な動植物が棲息している。	—
	■天念記念物にも指定されている土黒川のおキチモズク生息地をはじめ、本市の自然環境は貴重な生物の棲息地となっている。	6
	■外来種による雲仙固有の自然環境、生態系への影響も発生している。	—
都市の環境の維持・改善	■国見の都市計画区域外や瑞穂、吾妻、愛野などでは国道沿いや一部の農地で宅地化が進み、農地が減少している。	7

【施業放棄森林】間伐や適度な伐採などの保育作業が実施されず、荒廃し、生物多様性や土壌の保水性が低下した状態の森林

図：環境保全機能に関する緑の分析・評価

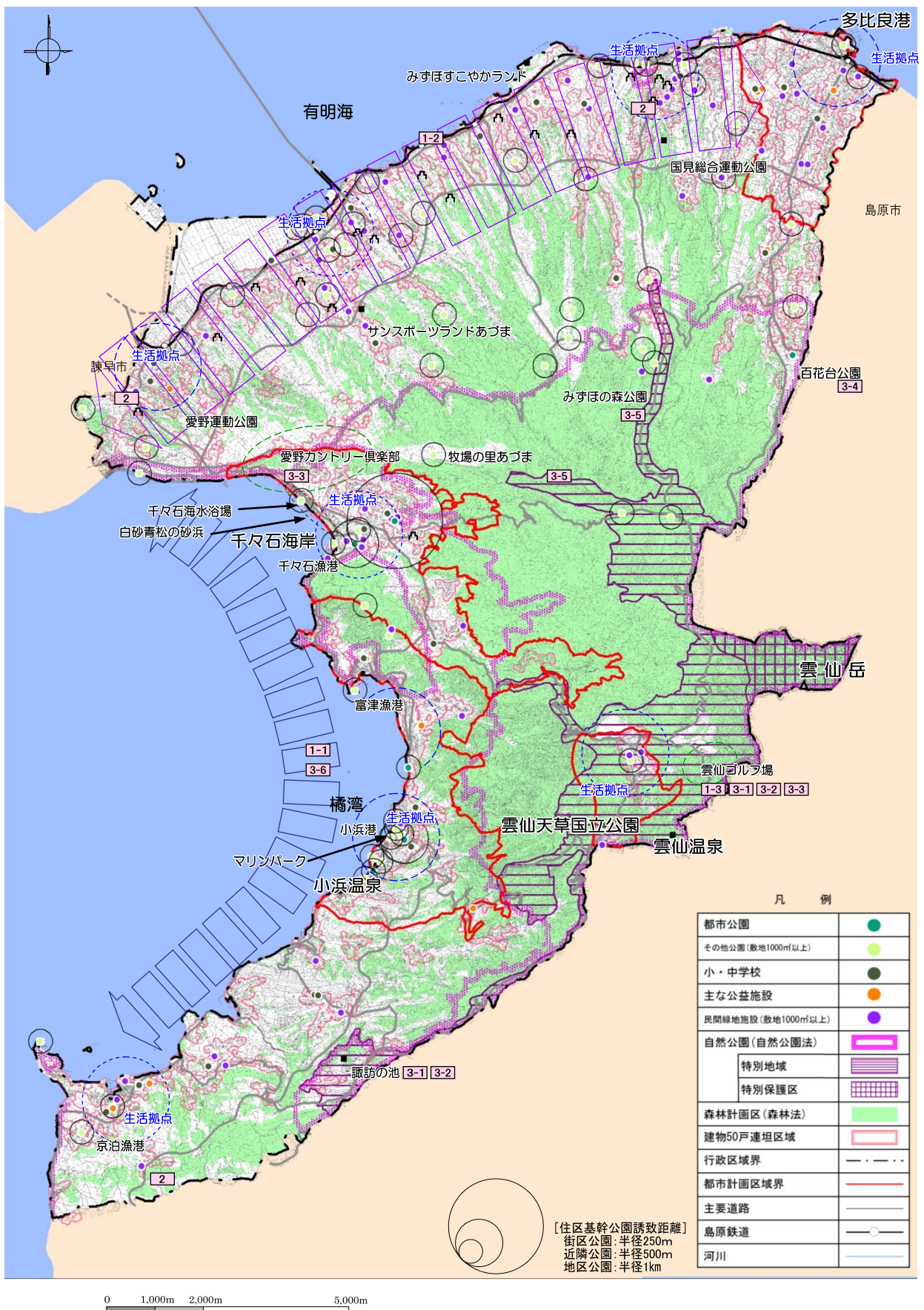


（２）レクリエーション機能に関する緑の分析・評価

レクリエーション機能を有する緑地については、「自然、歴史とのふれあいの場」、「日常圏におけるレクリエーションの場」、「広域圏におけるレクリエーションの場」に着目し、該当する緑地を抽出し分析・評価します。

評価項目	分 析	位 置
自然、歴史とのふれあいの場	■雲仙岳を中心に本市の山間部には森林が広がるが、独特の険しい地形によって、人が立ち入りふれあえる場所は少ない。	—
	■橘湾側では漁港など一部の港湾を除くと、そのほとんどが自然の海岸線を残している。一方、有明海側は、豊かな漁場である有明海に面している。	1-1
	■有明海側の平野部には城跡が点在しているが、その面影を残しているものは少ない。	1-2
	■雲仙ゴルフ場は雲仙天草国立公園の自然の中に位置し、100年の歴史を有する産業遺産となっている。	1-3
日常圏におけるレクリエーションの場	■都市公園は6箇所、40.42haが供用されている。	—
	■都市計画区域内に分布するのは5箇所、10.02haが供用されており、一人当たりの公園面積は、5.5㎡／人（都市計画区域内人口18,137人で算定）となる。	—
	■百花台公園を含めた場合の一人当たりの公園面積は、8.6㎡／人（行政区画47,245人）となる。	—
	■都市公園以外の公園は163.9ha分布しており、市域全体でみると、計43.3㎡／人の面積が確保されている。	—
広域圏におけるレクリエーションの場	■都市公園に準ずる公園は市内各所に点在しているが、生活拠点など人口が多い地域では、0.1ha以上の公園が不足している地区がみられる。	2
	■雲仙天草国立公園では、ゴルフ場やキャンプ場、散策路など、自然とふれあえる施設が整備されており、雲仙温泉とともに、全国から人々が訪れる広域レクリエーションの拠点となっている。	3-1
	■雲仙天草国立公園の雲仙地区は、1934年に指定された日本初の国立公園のひとつであり、古くから様々なレクリエーションに活用されてきたが、その結果、各種施設も老朽化が進んでいる。	3-2
	■雲仙ゴルフ場や愛野カントリー倶楽部など、雲仙市の地形や環境を活かしたレクリエーション施設が整備されており、市外からも多くの利用者が訪れる。	3-3
	■百花台公園はテニスコートなどの運動施設をはじめ、各種レクリエーション用途を踏まえた整備がなされており、市域を越えて利用者が訪れている。	3-4
	■瑞穂や吾妻では、キャンプ場を備えた大規模な公園や運動施設、牧場などレクリエーション施設が点在しており、地域や市域を越えた利用がなされている。	3-5
	■橘湾沿いの地域では、松並木と白浜を特徴とする千々石海水浴場や、観光・交流の場となっている小浜温泉のマリンパークなど、海とふれあえる広域レクリエーション施設が点在しており、漁業や「食」とともに広域的な発信力のある観光ブランドが構築されている。	3-6

図：レクリエーション機能に関する緑の分析・評価

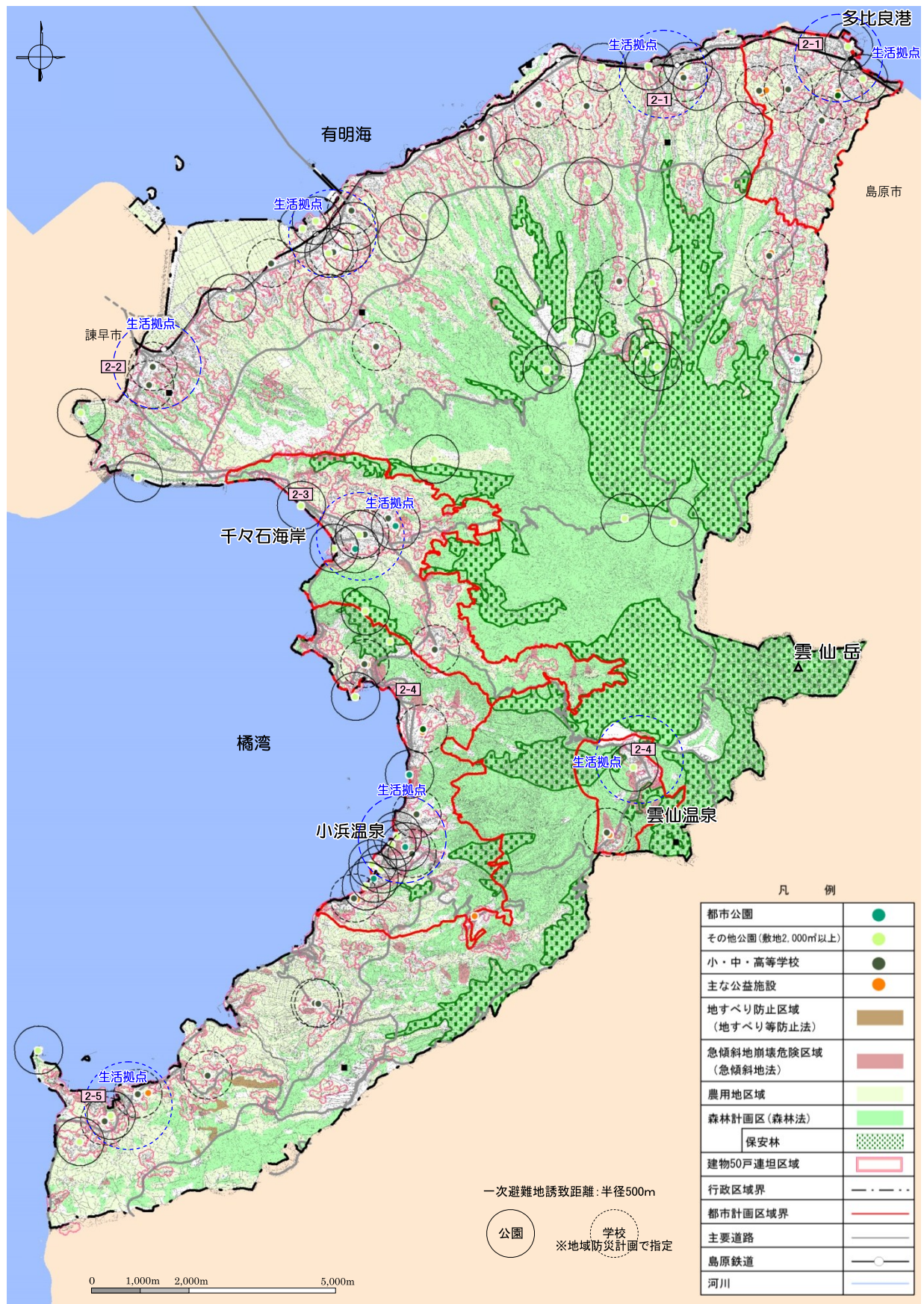


（３）防災機能に関する緑の分析・評価

防災機能を有する緑地については、「自然災害の危険防止」、「人為災害の危険防止」、「避難体系」、「多様な防災活動の拠点確保」に着目し、該当する緑地を抽出し分析・評価します。

評価項目	分 析	位 置
自然災害の危険防止	■橘湾沿岸に分布する市街地や集落地の背後に迫る山々や雲仙岳に向かう山間の地域などでは、地すべりや急傾斜地の崩壊などの危険性があり、森林が災害防止に重要な役割を担っている。	1
	■平野部に広がる農地や、営農されている棚田などは、水害を抑える遊水機能を有しているが、一部では農地転用が進んでいる。	—
人為災害の危険防止	■社寺林や屋敷林などは、市街地や集落地内において、火災時の延焼防止や遅延機能を担っている。	—
避難体系	■千々石や小浜温泉の中心部を除き、避難場所となる規模の公園(0.2ha以上と設定)が不足している。	—
	■国見、瑞穂などでは、避難場所となる規模の公園の数は一定数確保されているが、一部の集落地が誘致距離外にある。	2-1
	■愛野では、避難場所となる規模の公園が不足している。	2-2
	■千々石では、避難場所となる規模の公園は支所周辺に集中しており、一部の集落地が誘致距離外にある。	2-3
	■小浜では、避難場所となる規模の公園は小浜温泉付近に集中しており、北部の海岸沿いの集落地等が誘致距離外にある。 ■雲仙温泉では、避難場所となる規模の公園として中心部にかきつばた公園が配置され、温泉街はほぼ誘致距離圏内にあるが、これを補完する他の公園はない。	2-4
	■南串山では、避難場所となる規模の公園が不足している。	2-5
多様な防災活動の拠点確保	■小中学校や高校は、災害時の避難場所・防災拠点として位置づけられている。	—

図：防災機能に関する緑の分析・評価



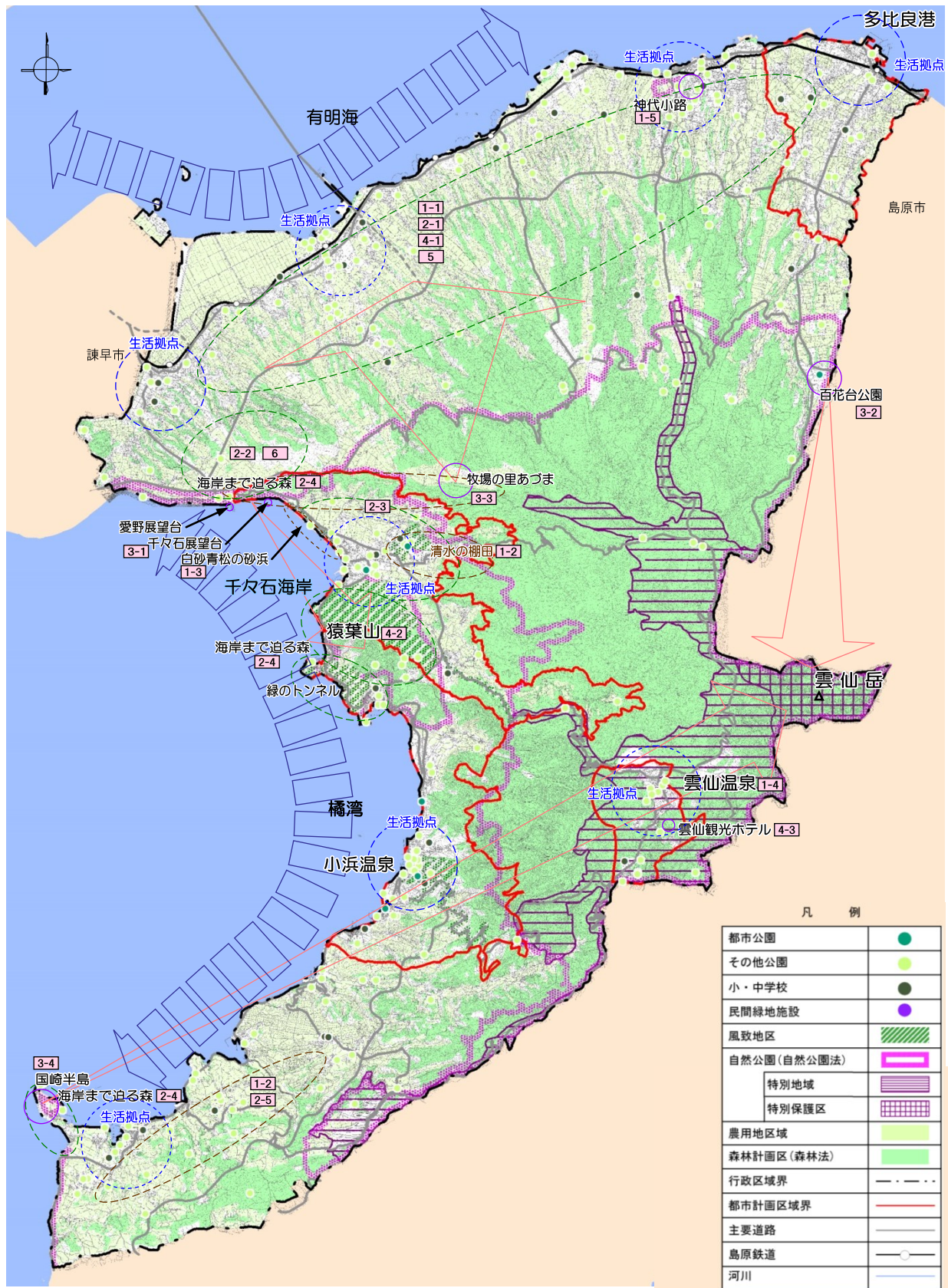
（４）景観形成機能に関する緑の分析・評価

景観形成機能を有する緑地については、「都市を代表する景観」、「地区・地域の良い景観」、「優れた景観の眺望点」、「ランドマークとなる場所」、「周辺要素」、「都市景観の創出が必要な地区」に着目し、該当する緑地を抽出し分析・評価します。

評価項目	分 析	位置
雲仙市を代表する景観	■平野部から眺める雲仙岳と、雲仙岳やその中腹から望むパノラマと有明海、橘湾の海岸線が、本市を代表する景観となっている。	1-1
	■千々石の山間にある「清水の棚田」や、橘湾を見下ろす南串山の段々畑など、特徴ある農の景観がみられる。	1-2
	■白砂青松の砂浜が約2kmに及ぶ千々石海岸は、江戸時代初期に塩害を防ぐ堤防として築かれた歴史的要素も有する景観である。	1-3
	■雲仙温泉は、自然公園内の開発誘導によって、背後の山々と調和し、統一感のある緑豊かな都市景観を形成している。	1-4
	■神代小路重要伝統的建造物群保存地区では、城址の森や屋敷林、生垣などの豊かな緑を有した歴史的街なみを形成している。	1-5
地区・地域の良好な景観	■国見や瑞穂、吾妻の平野部から雲仙岳を望むと、手前から農地、丘陵地の森、雲仙岳の山並みで構成された緑のパノラマが広がる。	2-1
	■愛野の丘陵地では、ジャガイモ畑を主とした農の風景が広がる。	2-2
	■橘湾に開けた千々石の平野部は、背後を千々石断層と猿葉山などの山々の緑に囲まれた景観を形成している。	2-3
	■橘湾沿いは、海岸近くまで森が迫ることで、海と森で構成した特徴的な緑の景観が広がっている。	2-4
	■小浜や南串山の海岸沿いは平野部が狭く、国道や県道沿いの家々の背後に緑が迫る景観が形成されている。	—
	■南串山の高台を切り開いた段々畑では、農の景観が広がる。	2-5
優れた景観の眺望点	■橘湾沿いは、所々で森が海岸近くまで迫っており、「愛野展望台」や「千々石展望台」が眺望点となっている。	3-1
	■百花台公園からは、背後にそびえる雲仙岳を望むことが出来る。	3-2
	■吾妻町の丘陵地に位置する牧場の里からは、有明海側に農地が広がる景観が見渡せる。	3-3
	■橘湾に突き出た国崎半島は、雲仙岳を望む眺望点であるとともに、海岸部における緑のランドマークとなっている。	3-4
ランドマークとなる場所	■有明海沿いの平野部に広く分布する城址や社寺は、生活の身近な場所に森を形成し、地域を代表する緑のランドマークとなっている。	4-1
	■猿葉山は、愛野、小浜両方向から千々石方面を望む緑のランドマークとなっている。	4-2
	■雲仙観光ホテルは、和洋折衷とスイスシャレー様式を採り入れた近代建築と庭園が、雲仙温泉のモニュメント的存在となっている。	4-3
周辺要素	■市民生活の背景には、農地や山林などが広がっており、良好な景観形成に寄与している。	5
	■耕作放棄された農地や施業放棄された森林の放置は、景観阻害の要因となる。耕作放棄地の増加が景観を損なっている。	—
都市景観の創出が必要な地区	■愛野など有明海側の平野部や丘陵地には「農の景観」が広がっていたが、近年は国道沿いなどで一部で商業開発や住宅開発が進んだことで、田園景観の中にも都市的景観の形成が見られる。	6

【スイスシャレー様式】アルプス地方に多く見られる軒の広く突き出た低い農家風の建築意匠

図：景観形成機能に関する緑の分析・評価



2. 緑の課題

2-1 機能別評価のまとめ

分析機能	評 価
環境保全	●有明海、橘湾の海岸沿いに生活行動圏と合わせて公園、公共施設緑地、民間施設緑地等が分布している。 ●雲仙岳をはじめ、優れた自然環境に恵まれている。 ●神代小路重要伝統的建造物群保存地区をはじめ、旧小濱鉄道トンネル群や雲仙観光ホテル、雲仙ゴルフ場といった近代化産業遺産、有明海側の平野に分布する多くの城址などの資源によって、緑豊かな環境が形成されている。 ●市街地(都市的土地利用集積地)や集落地の多くは、個々の敷地にゆとりがあり、緑豊かな環境を確保している。 ●市域の約8割を農地や山林などの自然地が占め、緑は十分に確保されているが、一部に農地の耕作放棄や森林の施業放棄の進行もみられる。 ●市内では、山林や河川、農地が保つ自然環境が、多種多様な動植物の生息地となっている。しかし、一方で外来種による環境への影響も発生している。 ●所々で、農地の宅地転用により、緑の減少が見られる。
レクリエーション	●雲仙天草国立公園のうち雲仙地区は1934年に指定を受けた国内最古の国立公園である。 ●都市公園は6箇所(国見1箇所、千々石2箇所、小浜3箇所)、供用面積40.4haの内30.4haを百花台公園(雲仙市の区域のみ)が占める。 ●百花台公園は、国見都市計画区域外に位置している。 ●市内にはゴルフ場やキャンプ場、海水浴場など、自然とふれあえる施設や、大規模な運動施設が点在している。 ●身近な公園は市内各所に分布しているが、その誘致距離圏外にも市街地・集落地は形成されている。
防災	●山間部等の森林は、地すべりや急傾斜地崩壊を防ぐ役割を担っている。 ●平野部の水田などの農地は営農されることで、遊水機能を有しているが、農地転用も進んでいる。 ●一部に密集した市街地がみられるが、農村を基礎とした集落地では豊かな屋敷林や庭が火災時の延焼防止など防火の役割を担っている。 ●避難場所となる公園(市内の都市公園並びに同程度の規模[0.2ha以上]を有したその他の公園)は不足している。 ●一部地域では避難場所となる公園が少なく、避難経路が限定される。
景観形成	●雲仙の代表的な景観として、雲仙岳、千々石海岸の松林、雲仙温泉の街なみ、神代小路等があり、特に雲仙岳は本市のシンボルとなっている。 ●有明海沿いに平野部が広がる国見、瑞穂、吾妻、愛野では雲仙岳や中腹の山林を背景に農の景観が形成されている。 ●愛野や国見をはじめ、有明海沿いに広がる農地では、農地の宅地化が各所でみられる。 ●橘湾沿いの小浜や南串山は平野部が狭く、海岸近くまで森が迫る特徴的な緑の景観が形成されている。 ●千々石の棚田、南串山の棚畑など、山間部に特徴のある農の景観がみられる。

2-2 緑の課題

(1) 環境保全の視点

環境保全に資する緑のネットワークの構築が求められる

本市の緑地の骨格は、雲仙岳を中心とした森林地帯を後背地として、東西及び南北に伸びる海岸線、平野部と台地に広がる農地から構成されています。これらは、良質な水と空気の供給、水質の改善、動植物の生息場所の提供を通じた生態系の保全といった様々な機能を発揮しています。また、緑は環境問題、生物多様性の確保の視点による取組みが求められています。

したがって、良好な自然環境を維持・継承するだけでなく、自然と共生した社会の実現に向け、森林や農地、水辺等を保全するとともに緑が持つ機能を維持するため自然地と地形のネットワークを視野に入れた豊かな緑地の保全・整備が重要となります。また、雲仙の自然環境を次世代へ引き継いでいくため、市民・事業者・行政が一丸となって持続的な取組みを進める事が求められます。

暮らしの中の緑の保全が求められる

本市は、過度な工業化・都市化が進行せず、社寺や城址などの歴史資源とともに田園地帯の中で市街地や集落地が形成され、その都市環境には豊かな緑を確保しています。こうした暮らしの身近にある緑は、市街地の高温化を抑える、風や騒音を防ぐ等の機能を通じて良好な居住環境の形成に寄与しています。

したがって、これらの機能を維持し、潤いのある都市環境を守るため、市民や事業者と連携しながら暮らしの中の緑を守っていく事が重要となります。

(2) レクリエーションの視点

観光・交流機会の創出が求められる

本市の緑は、古くから温泉、海水浴、登山、農業、林業、漁業など、様々な目的に利用され、関わってきました。さらに、これら様々な緑の資源・活動が連携することで、「雲仙」は全国レベルの観光地ブランドとしての地位を確立し、広域的な観光レクリエーションは本市の主要な産業となっています。

したがって、今後も観光・交流機会の創出に向けた緑の積極的な活用が重要となります。

既存施設の有効活用と質の充実にむけた取組みが求められる

本市には都市公園は少なく立地にも地域の偏りがありますが、都市公園に準ずる機能をもつ施設緑地は市内各地域に分布しています。一方で、本市は人口減少や少子高齢化が進行しており、財政的制約を踏まえた公共施設のあり方が求められます。

このため、今ある施設を有効に活用し、誰もが使いやすく、利便性の高い施設へ改善するなど、量的な確保から質の充実による取組みが重要となります。また、公園・広場をはじめとした緑の維持管理についても、地域住民との連携を通じた取組みが求められます。

（３）防災の視点

自然が有する防災機能の活用が求められる

本市の山間部は森林が広がることで地盤を安定させ土砂災害や土壌浸食防止の役割を果たしています。また、平野部や中山間地に広がる水田は、遊水機能を有することで水害から地域の生活の空間を守るとともに、「食」の安心を支える農業基盤として重要な役割を担っています。

したがって、自然が持つ防災機能を活用するため、これら自然を保全し適正に維持管理することが望まれます。特に、耕作放棄地や施業放棄森林については、その増加を抑制するため、関係機関との連携による農林業の振興や新たな利活用を通じて森林や農地が有する防災機能を管理する必要があります。

安全な都市空間の形成が求められる

身近な生活の場にある緑地は、火災の延焼防止や地震時の避難地といった防災機能を有しており、特に公園は防災の観点において拠点的な役割を担っています。本市の公園立地状況をみると、地域的な偏りがあり、今後は各地域の防災力の向上に向けた取り組みが求められます。しかし、人口減少、地域ニーズ、また財政的制約を踏まえると新規の公園整備は容易ではありません。

したがって、地域防災計画に基づき、学校などの避難施設を活用した緑地ネットワークの構築による防災機能の確保が重要となります。

（４）景観形成の視点

財産としての自然景観の継承が求められる

本市は、雲仙岳を中心とした壮大な山なみ景観や美しい海への眺望景観をはじめ、水と緑が織りなす優れた自然景観を有しています。これら自然景観については、そこで生活する人々や産業に密接な関係をもち、雲仙独自の風土を育んできました。また、雲仙天草国立公園や島原半島世界ジオパークに認定された自然特性は、本市の重要な観光資源となっています。

したがって、雲仙が持つ独特の自然景観は、そこで営まれる漁業や農業などの生活の景観も含め、緑を介した自然景観として保全・管理することが重要となります。

緑と調和した暮らしの景観づくりが求められる

本市は、農地などの緑が暮らしの中に溶け込むことで、潤いのある都市景観（暮らしの景観）を形成しています。しかし、一部地域でみられる耕作放棄地の増加や宅地への土地利用転換は、本市の緑の景観に変化をもたらしています。

緑は雲仙市で暮らす魅力でもあることから、緑豊かな景観形成に向け、市民・事業者・行政が共通の認識を持ちながら、緑地を確保した適切な土地利用の誘導を図るなど、緑の計画的な保全・創出が重要となります。

第3章 基本方針

1. 基本理念

上位・関連計画の位置づけや緑のまちづくりに対する社会的情勢、また緑の現況や市民アンケート結果により整理した雲仙市の緑の課題を踏まえ、本計画の基本理念を以下の通り定めます。

【基本理念】

みんなで育てる

きらめく水と緑のまち 雲仙

【基本理念設定の考え】

●『水と緑』

雲仙市は、雲仙山系の緑、その麓に広がる肥沃な大地、そして有明海・橘湾の海など、豊かな自然に恵まれています。これら豊かな緑と海及びそこで営まれる人々の生活・産業は、雲仙市の原風景であり、人々の誇りです。また、豊かな緑は、河川等を通じて水や栄養分の供給を通じて、豊かな海の形成に寄与しています。そこで雲仙市緑の基本計画においては、『水と緑』を一体的に捉えたまちづくりを目指します。

●『きらめく』（自然、産業、観光、まちがきらめく）

雲仙市の水と緑は、様々な生物の命を育み、農畜産業だけでなく水産業の発展にも大きく寄与し人々の暮らしを支えています。それに加えて水と緑は、リゾート地として有名な雲仙・豊富な湯量を誇る小浜温泉、紅葉や霧氷などの四季の彩り、美しい海岸線や棚田の自然景観など、五感で楽しみ、住む人・訪れる人の感性を高める景観の形成にも寄与してきました。こうした水と緑によって作り上げられた環境を活かして作り上げる雲仙市の未来のキャッチフレーズとして、上位計画である雲仙市総合計画では「四季ゆたか きらめく雲仙 ゆめみらい」と定められています。市民共有の財産である水と緑を未来に受け継ぐために、緑の基本計画においても、水と緑を活かした『きらめく』雲仙の形成を目指します。

●『みんなで育てる』

雲仙市の水と緑は、先に示した通り観光交流、島原半島世界ジオパーク等の自然遺産、また安全・安心や魅力的な暮らしの要素として多様な役割を担っています。水と緑がこうした役割を発揮するためには、人々による管理が欠かせません。これまでに管理を担ってきた人や組織は、人口減少や厳しい財政状況のもとで、減少・弱体化しています。こうしたなか水と緑がもつ魅力や機能を維持し活用するためには、市民、事業者、行政といった様々な主体が適切な役割分担のもとに、共に取り組んで行くことが必要不可欠となってきています。そこでこれまでの行政主導の取組から、『みんな』が共に雲仙市の水と緑の魅力や機能を認識し、新たな視点から主体的に雲仙市の水と緑を『育てる』ことを目指します。

2. 将来像と基本方針

基本理念のもと、雲仙市の水と緑のまちづくりを進めていくため、『将来像』と『基本方針』を定めます。

『将来像』は、基本理念に基づく水と緑のまちづくりを進めていく上で、どのような水と緑をどこに配置し、どのようにしていくのかなど、目指すべき空間像（姿）を示します。また、『基本方針』は、どのような観点・視点にたって、基本理念に基づく水と緑のまちづくりを進めていくのか、また将来像を達成していくのかなど、理念や将来像を達成していくための基本的な考えを示します。

2-1 将来像

（1）基本概念

「将来像」は、雲仙市の地形や成り立ち、特性を踏まえ、以下の観点に配慮しながら緑の配置、連携のあり方を位置づけます。

①緑の骨格

雲仙市の空間構成の骨格となる水と緑のことです。

具体的には、雲仙市の主要な空間構成要素といえる「山地・丘陵地」、「田園」、「海岸」などです。

②緑の拠点

人々のにぎわいや潤いをもたらす、歴史・文化的資源が存在する地域の身近にある緑のことです。

具体的には、百花台公園、橘公園等のレクリエーションや文化機能を備えた公園や神代小路、国崎半島、雲仙温泉などの歴史や魅力的な資源がある場所、地区です。

③緑の軸（水と緑のネットワーク）

骨格と拠点間を結ぶ、市街地との緩衝帯となる帯状の緑のことです。

具体的には、以下の3点の考えにもとづき設定します。

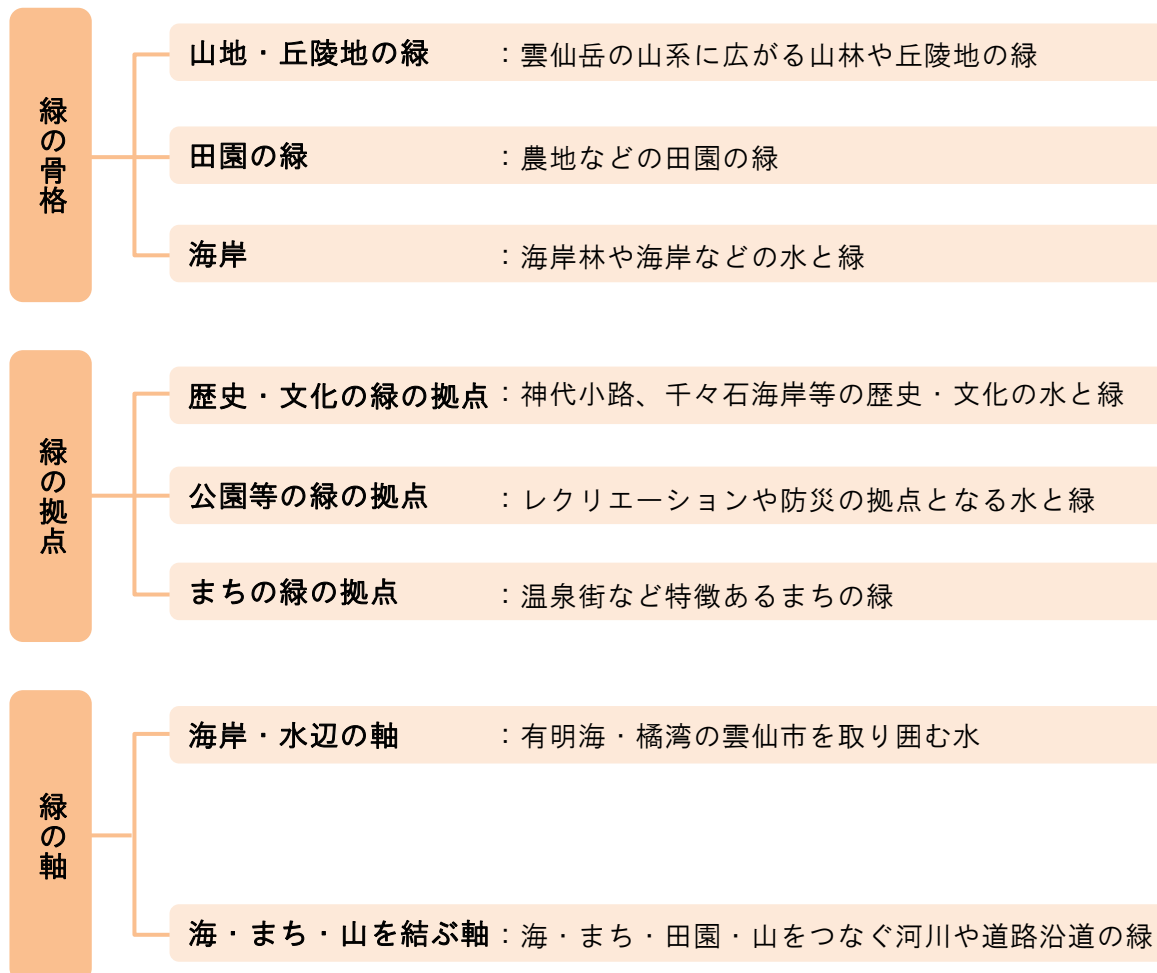
○市街地を囲む緑、雲仙市の景観の領域を構成する緑の景観軸

○雲仙普賢岳（雲仙山脈）と田園、海岸をつなぎ、魅力的な景観の創出、自然環境の保全や防災などの緑の機能を向上させるための水（海岸線）と緑の軸

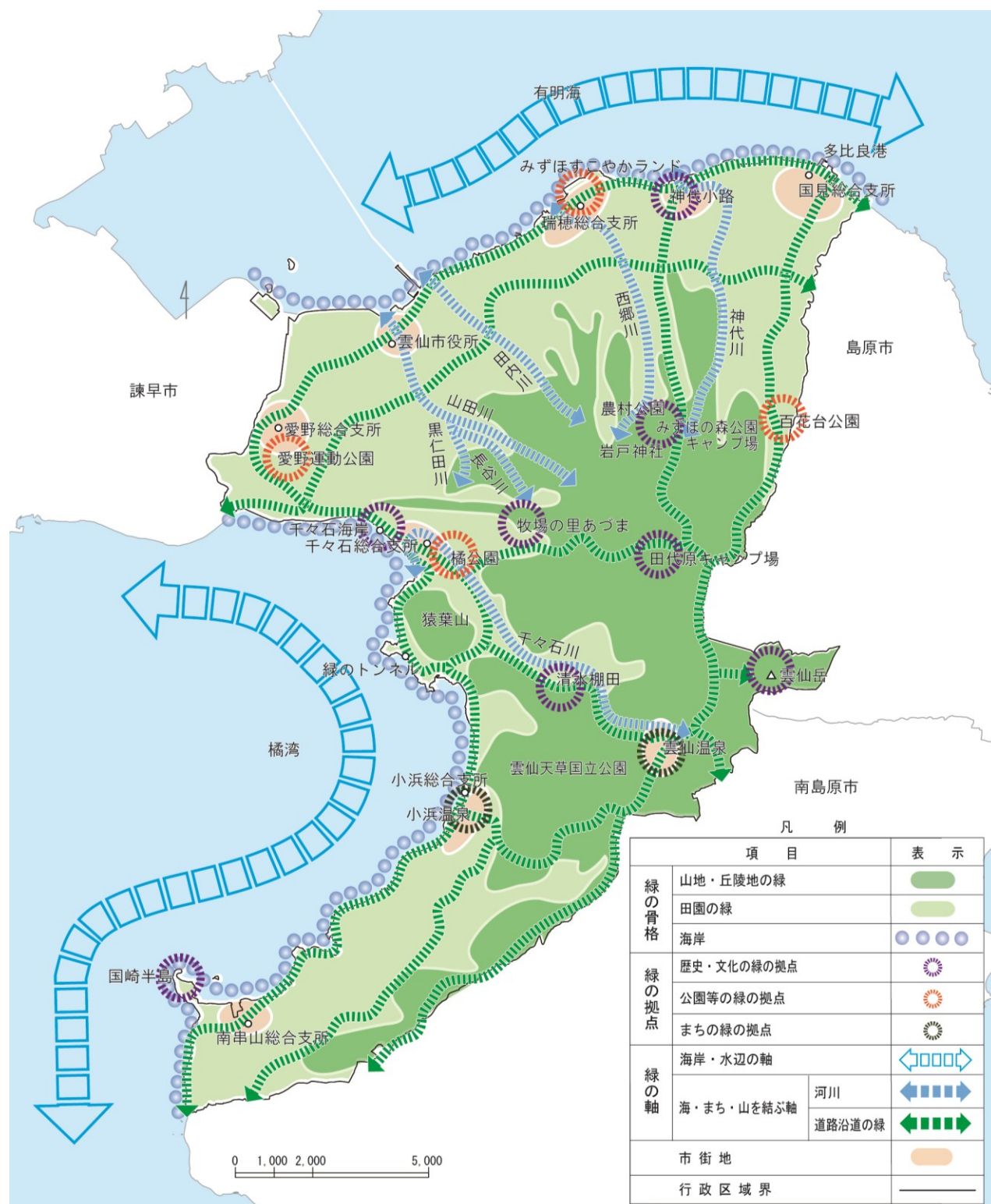
○緑の拠点を結ぶ多彩な緑の軸

（２）雲仙市の水と緑の「将来像」

基本理念に基づく水と緑のまちづくりを進めていく上で、特に重要な雲仙市の水と緑のありべき姿を将来像として示します。



図：緑の将来像図（将来の水と緑の配置等を示す空間像）



2-2 基本方針

(1)「基本方針」について

「基本方針」は、理念や将来像を達成していくための基本的な考えを示します。そこで、「基本方針」の設定については、緑の現況で整理した水と緑がもつ「環境保全機能」「レクリエーション機能」「防災機能」「景観形成機能」の4つの機能（効果・効用）と、それらの効果・効用を発揮することの担い手となる市民、事業者、行政の“主体”の観点として「協働のまちづくり」を加え、将来像と基本方針の基本的な考え方について整理します。

特に、基本理念に掲げるように『みんな』が一緒になって雲仙市の緑を『育てる』ことで、雲仙市の個性や魅力の発揮につながると考え、「協働のまちづくり」の観点を加えています。



(2) 理念・将来像と基本方針の体系

基本理念

みんなで育てる きらめく水と緑のまち 雲仙

骨格

将来像

拠点

主体
(行政・市民)

基本方針

環境保全機能

- 橘湾・有明海の海辺、海岸線
- 雲仙岳を中心とした森林地帯
- 生態系・自然循環を育む環境
- 自然と調和した里山環境

- 海～まち～里山～山を結ぶ河川
- 風景や眺望など、緑の骨格となる稜線等

- 水と緑に囲まれた自然豊かな街なみ
- 歴史・文化地区など、特徴ある街なみ

景観形成機能

- 雲仙天草国立公園の雄大な自然
- 島原半島世界ジオパークの地形
- 棚田や段々畑の特徴ある農の風景

- 雲仙の特徴ある自然の海岸線
- 雲仙登山道沿線風致地区等の道路

- 小浜温泉、雲仙温泉等の市街地
- 歴史的な街なみ
- 海辺の市街地

レクリエーション機能

- グリーンツーリズム、ブルーツーリズムなど、水と緑を生かした体験・体感の場
- 島原半島世界ジオパークの地形

- 千々石海岸
- 海岸レクリエーション地域
- 九州自然歩道
- 普賢岳新登山道
- 主要道路沿道(ドライブコース)

- 子供の遊び場、レクリエーションとなる大規模公園・広場・施設
- 小浜温泉、雲仙温泉等の市街地

防災機能

- 土砂災害の防止などの役割をもつ森林機能
- 遊水機能をもつ水田

- 緊急輸送路となる道路
- 延焼遮断帯となる道路や市街地内の水と緑のネットワーク

- 防災機能をもつ公園・広場・公共・民間施設
- 社寺林、屋敷林等の緑

- 水と緑にふれあう機会の創出
- 協働のまちづくりに向けた意識の醸成
- 水と緑の保全・創出活動等

快適で美しい
水と緑を守り
未来へ繋ぐ

五感で楽しめる
安全・安心な
水と緑の環境を
創る

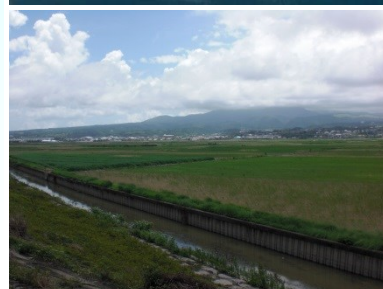
市民協働による
水と緑のまち
づくりを育てる

（３）基本方針

雲仙市の緑のまちづくりを進めていくため、以下の基本方針を定めます。

快適で美しい水と緑を守り、未来へ繋がります

- 雲仙市の水と緑の骨格として雲仙らしい風景を守るほか、生物多様性の確保、自然環境の保全、水源かん養や土砂災害の防止など、多様な機能をもつ水と緑を守ります。また、県内有数の農業地帯である特徴を活かすためにも、豊かな農地や水資源を守ります。
- 豊かな水の循環、生き物の連続的な生息・移動空間の他、風景の軸となる河川空間や、市街地を取り囲む緑の他、特徴ある街なみや緑豊かな街なみなど、美しい景観を形成する緑を守ります。



五感で楽しむ、安全・安心を支える水と緑の環境を創ります

- 雲仙天草国立公園の雄大な自然や島原半島世界ジオパークの地形、温泉街、雲仙の農業（＝「食」）などを活かした豊かな自然とのふれあいなど、観光推進や交流による賑わいの形成に寄与する水と緑を活かし、雲仙市のきらりと光る個性を創ります。
- 子供の遊び場や市民の憩いや安らぎの空間として、また災害時において災害対応・復興の拠点、火災時の延焼を防ぎ避難路となる連続的な水と緑のネットワークを確保・配置するなど、水と緑を活かして安全・安心な都市空間を創ります。

水と緑に対する理解を深め、市民協働による水と緑のまちづくりを育てます

- 市民の緑への知識や関心を高める機会の提供や専門知識やリーダー的人材を育成するなど、雲仙市が持つ水と緑の機能を守り、その資源を活用していくため、人・組織・場を育てます。
- 水と緑にふれあう機会の創出、活動の場の提供、サポート体制の充実を図るなど、市民主体の水と緑のまちづくり、事業者による緑を通じた社会貢献活動を育てます。



3. 将来目標の設定

3-1 将来フレームの設定

(1) 将来人口

将来人口については、雲仙市都市計画マスタープランを基に、計画目標年度である平成42年（2030年）の行政区域人口を約37,000人に設定します。

表：将来人口

平成22年	平成42年（目標年度）
行政区域 47,245人	行政区域 37,000人
都市計画区域 18,137人	都市計画区域 14,200人
雲仙市都市計画 マスタープラン 47,582人 （推計値）	雲仙市都市計画 マスタープラン 37,000人 （推計値）

（補足）都市計画区域の将来人口

都市計画区域の将来人口については、平成22年現在の人口割合（行政区域に対する都市計画区域の人口の割合）を基準として設定する。

単位（人）

区 域	平成12年	平成17年	平成22年
行政区域	52,230	49,998	47,245
国見 都市計画区域	6,421	6,156	5,808
千々石 都市計画区域	5,816	5,456	5,000
小浜 都市計画区域	8,813	8,062	7,329
都市計画区域	21,050	19,674	18,137
人口割合（対行政区域）	40.3%	39.3%	38.4%

資料：国勢調査、都市計画基礎調査

(2) 計画対象区域の規模

計画対象区域の規模は、基本的に現在の区域を継続するものとします。

表：計画対象区域の規模

平成22年	平成42年（目標年度）
行政区域 20,692ha	行政区域 20,692ha
都市計画区域 5,966ha	都市計画区域 4,106ha
	注）平成26年に千々石都市計画区域 を変更しているため面積が縮小

3-2 緑の将来目標の設定

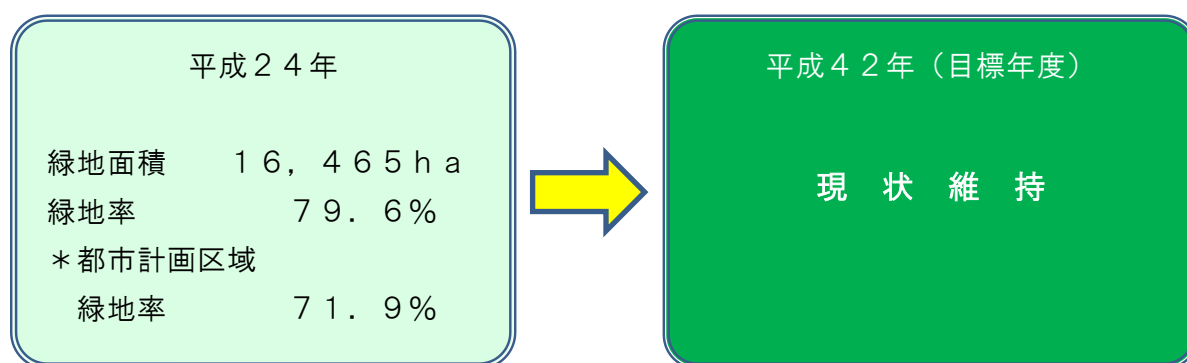
具体的な施策を推進するため、目標年次までの目標とすべき指標について以下のように設定します。

(1) 緑地率

緑地率とは、都市公園、公共施設緑地、各種法規制により担保されている緑面積の行政区域もしくは都市計画区域に対する割合です。

雲仙市の恵まれた自然環境や歴史的風土を将来にわたって保全し、身近な緑の創出に取り組むことが、緑のまちづくりの基本的な目標になると考えます。

過去の調査研究から、住民が快適に生活をおくる上で必要な緑地の割合は、30%～60%程度以上と言われており（※1）、雲仙市においては、現況の緑地率が80%程度となっているため、市域全体において緑の割合を将来も維持していくことを目標とします。



$$\text{緑地率} = \frac{\text{行政区域内の緑地（現況及び目標）}}{\text{行政区域面積}} \times 100$$

$$\text{緑地率} = \frac{\text{都市計画区域内の緑地（現況及び目標）}}{\text{都市計画区域面積}} \times 100$$

（※1）緑地率の目標値について

1) 緑の基本計画における緑地の確保目標量

市街化区域の周辺に計画する緑地で隣接性、地形的一体性、緑地の同質性などから市街化区域の緑地と同等の効用を有するものを含めて、原則として、市街化区域面積に対しておおむね30%以上の緑地を確保することを標準とする。

参考文献：日本造園学会編(1998)：ランドスケープの計画：技報堂出版。

2) グリーンミニマム

人々が快適な生活をおくる上で最低限必要な緑地を「グリーンミニマム」とし、アンケートから明らかにしている。その結果、「住環境に於ける自然面率は標準として50%、最低であっても40%、出来れば新たな都市開発に於いては60%以上の自然面を確保するように努めるべきである」としている。

参考文献：進士五十八(1975)：住環境に於けるグリーンミニマムについての研究：造園雑誌

（２）都市公園等整備量

都市公園をはじめとする緑は、良好な都市環境の提供、都市の防災性の向上、市民の憩いや活動の場など、様々な役割を担っています。特に、市民アンケート調査においても、身近な公園の確保に対する意見も多く、都市公園等を確保することは重要であります。

一般的に、緑の基本計画は都市計画区域を対象としており、当該区域内の都市計画公園を対象とします。しかし、雲仙市では、都市計画を定めていない地域があり、良好な都市環境の達成は、都市計画区域のみならず雲仙市全体で達成していく事が重要です。そこで、公園面積及び住民一人当たりの公園規模を目標指標とします。ここで対象とする公園は、雲仙市全域に分布する都市公園、農村公園、その他公園や広場など、住民が身近に利用できる公園としての機能をもつ施設を対象とします。

なお、目標値の設定にあたっては、「雲仙市都市公園条例」において、住民一人当たりの都市公園の敷地面積の標準は、 10 m^2 以上と定めており、その他公園等を含めるとこれを十分に満たしています。そのため、今後も都市公園等の適正な維持管理に努めます。

表：都市公園等整備量（都市公園及びその他公園等を含む）

平成22年	平成42年（目標年度）
都市公園等 204.3ha 1人当たり面積 43.3 m^2	現状維持 注）1人当たり面積を現状維持とする

それに加えて、雲仙市の条例と緑の基本計画の特性を踏まえ、都市公園整備量の目標を定めます。都市公園については、「雲仙市都市公園条例」にあわせ、雲仙市全域の都市公園整備量を 10 m^2 /人を目標とします。

○参考：都市公園整備量

平成22年	平成42年（目標年度）
都市公園面積 40.4ha 1人当たり面積 8.6 m^2	1人当たり面積 10.0 m^2

※都市公園面積には、百花台公園の島原市の面積を除く公園供用面積を含む。

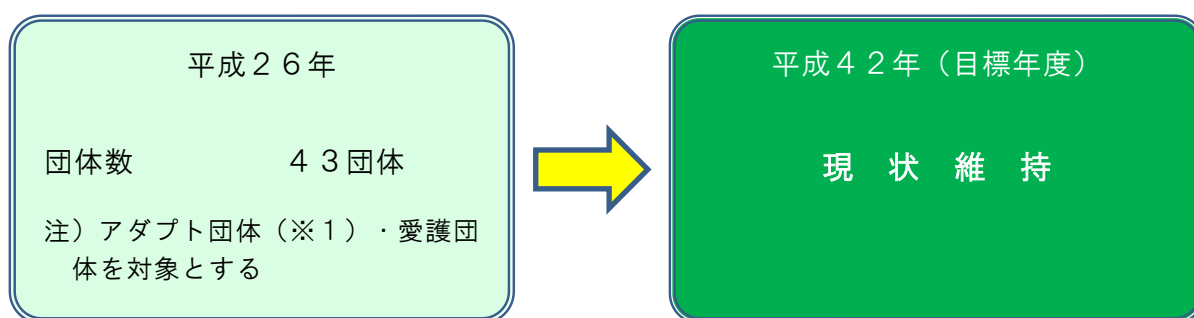
（３）市民・企業ボランティアの活動数

雲仙市の緑の質を高めていくためには、そこに住み・働く人たちとの協働による取り組みが必要不可欠となります。特に、市民生活に密着した身近な緑の管理など、活動を通じた緑とふれあう機会の拡大は、緑の質の向上に加え、市民の緑に対する意識の向上、コミュニティの維持や活性化にもつながります。また、環境問題への関心が高まる中で、市民をはじめ企業等の社会貢献活動による緑づくりへの参画が期待されます。

そこで、緑のまちづくりにおける市民・企業ボランティアの活動数を目標指標とします。ここで対象とする市民・企業ボランティアは、長崎県のアダプト団体・愛護団体として登録されている雲仙市内の団体とします。

目標値の設定にあたっては、雲仙市において、各地域の人口が大きく減少している状況にあり、市民・企業ボランティア団体が継続してボランティア活動を行っていくことは厳しい状況が想定されます。そのため、現在の市民・企業ボランティア団体数・活動を維持していくことを目標として設定します。

表：市民・企業ボランティアの活動数



※1:アダプト団体とは

「アダプト」とは、「養子縁組」という意味です。長崎県が管理する河川・海岸・道路などの施設について、住民団体、NPO、企業等の自発的なボランティアを募集し、「アダプト」と認定することにより、行政と市民がパートナーとして美しい道路河川等の環境を創り出していこうとするもので、団体の規模・活動内容により「アダプト団体」と「愛護団体」があります。

（４）緑の満足度及び公園の充実度

自然豊かな雲仙市においては、身近に多くの緑があふれ、概ね緑が充足している環境にあるといえます。また、将来人口の減少が見込まれることから、緑の量の拡大の考え方を転換し、今ある身近な緑の質を高めていく事も重要となります。

雲仙市緑の基本計画策定にあたって実施した市民アンケート調査結果では、「問１ 雲仙市の緑の現状評価 イ 雲仙市全体でみた緑の環境」及び「③公園の充実度」における”満足”及び”おおむね満足”と回答された方の合計値が、それぞれ８２．９％、４３．３％となっております。

そこで、雲仙市の緑に対する市民の満足度＝「緑の満足度」を目標値として設定します。また、公園においては子どもの遊び場、良好な子育て環境や憩いの場となるよう、既存公園の再整備を基本として、雲仙市の公園に対する市民の満足度＝「公園の充実度」を目標値として設定します。

目標値については、「緑の満足度」は、現在の雲仙市の素晴らしい水と緑の環境を保全・維持するものとして、平成２４年現在の数値を将来も維持していくものとします。

「公園の充実度」は、公園の質の向上や市民主体の取組みを通じて、不満傾向の約１０％の住民が満足傾向へ改善することを目標として、充実度を５０．０％とします。

表：緑の満足度

平成２４年		平成４２年（目標年度）	
緑の満足度	８２．９％	緑の満足度	現状維持
公園の充実度	４３．３％	公園の充実度	５０．０％

■現況・課題及び基本構想等の整理

上位・関連計画の位置づけ

雲仙市総合計画（平成24年～平成28年）		都市計画マスタープラン（平成22年～平成42年）	
将来像	「豊かな大地・輝く海と ふれあう人々で築く たくましい郷土」	都市づくりの目標	○活力あるコンパクトな都市づくり ○道路・交通ネットワークの充実した都市づくり ○自然や歴史文化と調和する魅力的な都市づくり ○みんなが住みたくなる安全で快適な都市づくり ○市民参画と協働による都市づくり
将来像実現のテーマ	雲仙・山麓「食」、「遊」、「快」のくにづくり		○豊かな自然環境の保全・継承 ○観光・レクリエーション拠点となる公園緑地の整備・充実 ○市街地や防災上問題のある地区で身近な公園の確保
基本方針	○快適で住みよい暮らしづくり ○新しい観光・交流による活力づくり ○明日を担う人づくりと誇りあるふるさとづくり	公園・緑地・水辺の方針	
雲仙市のキャッチフレーズ	四季ゆたか きらめく雲仙 ゆめみらい		

概況、緑地現況、緑に関する市民の意識

雲仙の概況、緑の現況及び市民意識を踏まえた緑の評価	
環境保全	・雲仙岳をはじめとした優れた自然環境 ・文化的価値を有する緑豊かな環境を形成 ・市街地や集落地の多くは、緑豊かな環境を確保 ・農地の耕作放棄や森林の施業放棄の進行 ・農地転用による、緑の減少
レクリエーション	・雲仙天草国立公園は1934年に指定を受けた国内最古の国立公園 ・都市公園は6箇所、供用面積40.4haで、一人当たりの公園面積は8.6㎡/人 ・国見、瑞穂、吾妻、愛野、小浜にレクリエーション施設、国見と千々石に海水浴場が分布 ・身近な公園の誘致圏外に市街地や集落が分布
防災	・山間部等の森林は、地すべりや急傾斜地崩壊を防ぐ役割を担う ・農地遊水機能 ・一部に密集した市街地がみられるが、農村を基礎とした集落地では豊かな屋敷林や庭が火災時の延焼防止など防火の役割を担う ・避難場所となる公園が不足する地域が分布 ・一部地域では避難場所となる公園が少なく、避難経路が限定
景観形成	・代表的な景観として、雲仙岳、千々石海岸の松林、雲仙温泉の街なみ、神代小路があり、特に雲仙岳は本市のシンボルとなる ・雲仙岳や中腹の山林を背景に農の風景が形成 ・一部で農地の宅地化がみられる

緑の課題

環境保全に資する緑のネットワークの構築と暮らしの中の緑の保全が求められる
○良質な水と空気の供給、様々な動植物の生息場所となる自然環境の維持・継承 ○自然と共生した社会の実現に向けた森林・農地・水辺の保全が必要 ○良好な住環境の形成に向けた、暮らしに身近な緑の保全が必要 ○自然地と地形のネットワークを視野に入れた豊かな緑地の保全・整備が必要
観光・交流機会の提供と地域交流環境の創出が求められる
○「雲仙」の観光ブランドの確立と観光・交流機会の創出に向けた緑の活用が必要 ○人口減少、効率・効果的な財政の運営を考慮した公共施設の運営が必要（今ある施設の有効活用、施設の多面的な利用）
自然が有する防災機能の活用と安全な都市空間の形成が求められる
○耕作放棄地や施業放棄森林の増加を抑制することが必要 ○森林や農地が持つ、防災機能の管理が必要 ○地域防災計画に基づく、公園及びその他公共施設を活用した緑地ネットワークの構築による防災機能の確保が必要
財産としての自然風景の継承と緑と調和した暮らしの景観づくりが求められる
○雲仙の壮大な自然景観の保全と活用が必要 ○生活の景観（文化財保護法）を含めた風景としての保全が必要 ○魅力ある暮らしの場としての緑の計画的な保全・創出が必要

雲仙市緑の基本計画の理念と方針

施策の体系

基本理念

みんなで育てる
きらめく水と緑のまち 雲仙

- 『水と緑』を一体的に捉えたまちづくりを目指します。
- 市民共有の財産である水と緑を未来に受け継ぐために、水と緑を活かした『きらめく』雲仙の形成を目指します。
- 『みんな』が共に雲仙市の水と緑の魅力や機能を認識し、新たな視点から主体的に雲仙市の水と緑を『育てる』ことを目指します。

基本方針

快適で美しい水と緑を守り、未来へ繋ぎます

- 雲仙市の水と緑の骨格として雲仙らしい風景を守る。
- 生物多様性の確保、地球環境の保全、災害の防止など、多様な機能をもつ水と緑を守る。
- 県内有数の農業地帯となる雲仙の豊かな農地や水資源を守る。
- 河川空間や、市街地を取り囲む緑の他、特徴ある街なみや緑豊かな街なみなど、美しい景観を形成する緑を守る。

五感で楽しむ、安全・安心を支える水と緑の環境を創ります

- 雲仙天草国立公園、島原半島世界ジオパークの地形、温泉街、雲仙の農業（＝「食」）など、観光推進や交流による賑わいの形成に寄与する水と緑を活かし、雲仙市のきらりと光る個性を創る。
- 遊び場・憩い空間として、また災害時の拠点、避難場所となる公園の適正配置、火災時の延焼を防ぎ避難路となる連続的な水と緑のネットワークを確保・配置するなど、水と緑を活かして安全・安心な都市空間を創る。

水と緑に対する理解を深め、市民協働による水と緑のまちづくりを育てます

- 市民の緑への知識や関心を高める機会の提供や専門知識やリーダー的人材を育成するなど、雲仙市が持つ水と緑の機能を守り、その資源を活用していくため、人・組織・場を育てる。
- 水と緑とふれあう機会の創出、活動の場の提供、サポート体制の充実を図るなど、市民主体の水と緑のまちづくり、事業者による緑を通じた社会貢献活動を育てる。

守る

育てる

創る

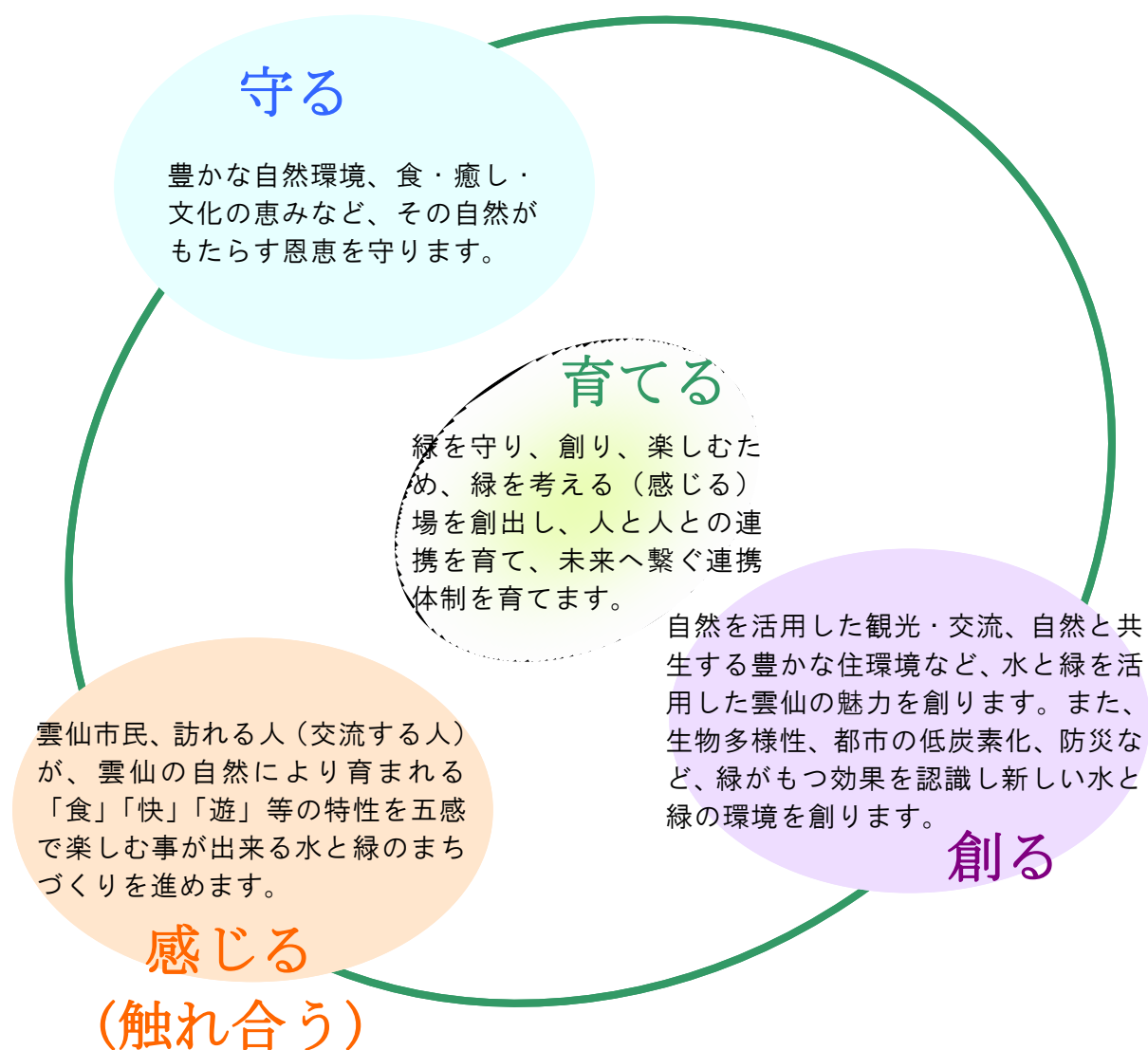
感じる

第4章 緑地保全及び緑化推進のための施策

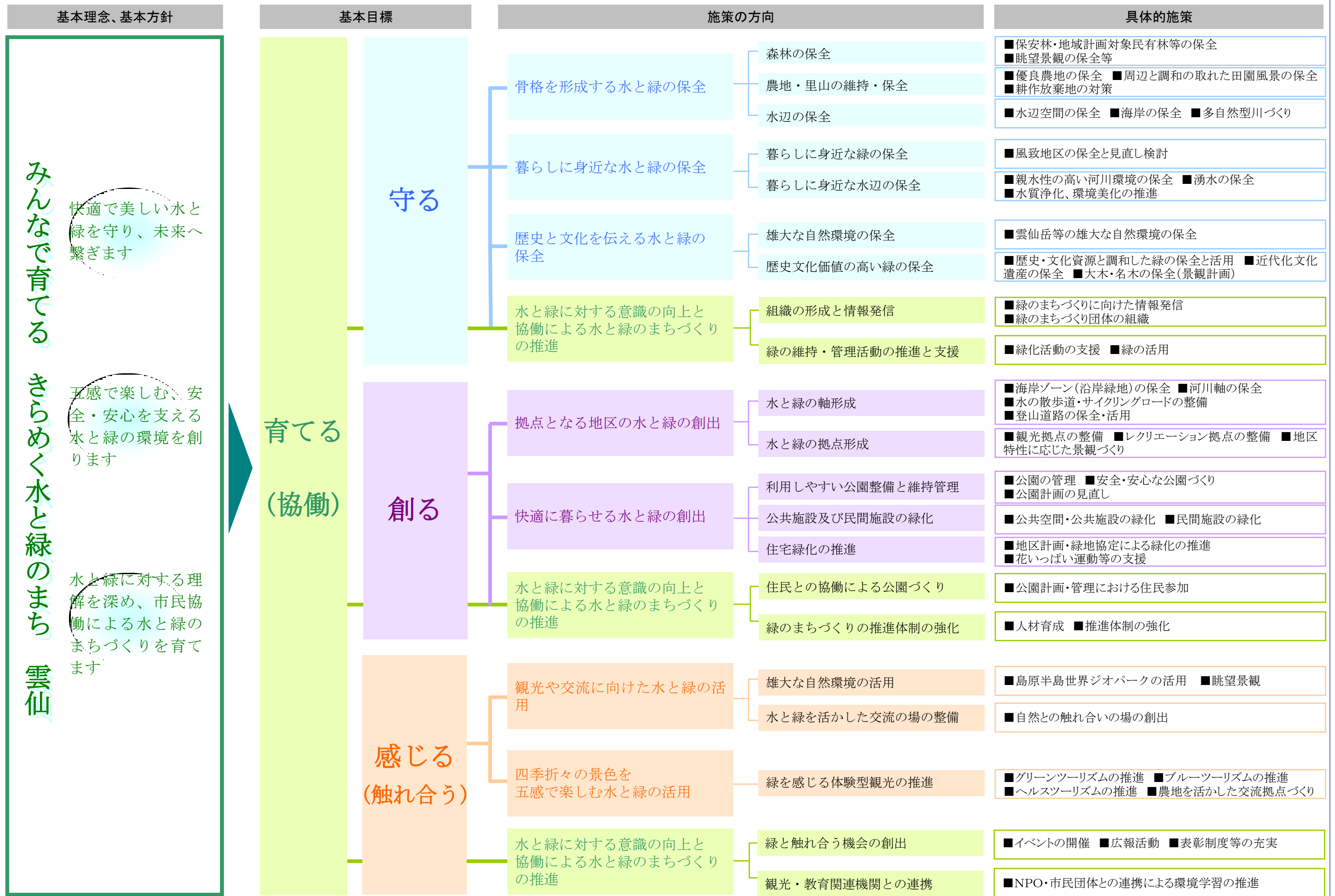
1. 施策の基本体系

緑の将来像、基本方針の実現に向けて、推進する施策の方向と具体的施策を定めます。

これら施策は、相互に密接な関係を持つことから、基本方針に基づき「水と緑を“守る”施策」「水と緑を“創る”施策」「水と緑を“感じる”施策」とそれらを推進していくための「水と緑のまちづくりを“育てる”施策」の4つに分類し、それぞれ体系化します。



施策の体系図



2. 水と緑を『育てる』ための取組み

2-1 水と緑を『育てる』ための基本方針

(1) 基本方針

雲仙市には、環境保全・レクリエーション・防災・景観形成機能からみても、魅力に富んだ多くの水と緑が分布しています。これら緑の質を高め、新たな価値を創出していくには、市民・事業者・行政による協働の取組みが必要不可欠となります。しかし、一方で市民をはじめ雲仙市で住み、働き、学ぶ人たちが、これら自然と触れ合う機会や自然がもたらす恩恵を意識できる機会は減少しています。

そこで、緑の豊かさ、美しさ、また緑がもたらす恩恵を改めて意識し、雲仙市の緑を『守る』『創る』『感じる（触れ合う）』『育てる』ため、緑に対する感性を磨き、緑に対する意識を高めるなど、協働による取組みを進めます。

なお、協働により緑を『育てる』取組みは、緑を『守る』『創る』『感じる（触れ合う）』取組みを支える基本的な方針となる事から、具体的な施策については、それぞれの施策の中で整理します。

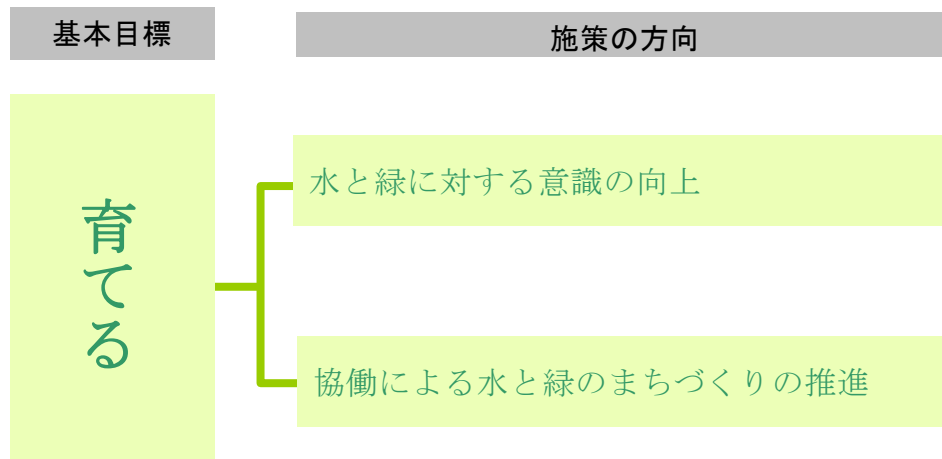
①水と緑に対する感性や意識の向上

- 市民・事業者・行政が目標を共有し、協働によるまちづくりを進めます。
- 緑と触れ合える場、緑のまちづくりに参加できる場を創出します。
- 緑のまちづくり活動が持続的に推進されるよう、様々な情報提供やイベントを通じた情報発信を進めます。
- 次世代を担う子ども達が、緑を学び、触れ合う機会を増やすなど、緑をつなぐ教育を進めます。

②協働による水と緑のまちづくり

- 市民参加、市民活動団体の設立、事業者の環境保全意識の向上など、緑のまちづくり活動が円滑に進むよう、活動機会の提供、活動支援など、協働の取組みを進めます。
- 緑に関する様々なイベントや広報を活用し、活動情報の共有、雲仙市の目指す方向性が共有できるよう交流の場をつくります。

(2) 施策の基本体系



※P39「施策の体系図より抜粋」

3. 水と緑を『守る』ための取組み

3-1 水と緑を『守る』ための基本方針

(1) 基本方針

①骨格を形成する水と緑の保全

- 雲仙らしい景観を守るため、雲仙山系、丘陵地の緑など、雲仙市の骨格となる緑を守ります。
- 雲仙山系の中腹、平野部にひろがる農地や田園景観を守ります。
- 橘湾、有明海の自然のまま残る海岸線の保全、海～まち～山を結ぶ河川空間等の貴重な水辺環境を守ります。
- 生物多様性の確保、自然環境の保全、水源かん養、土砂災害の防止などの公益的機能など、緑が持つ機能（役割）を守ります。

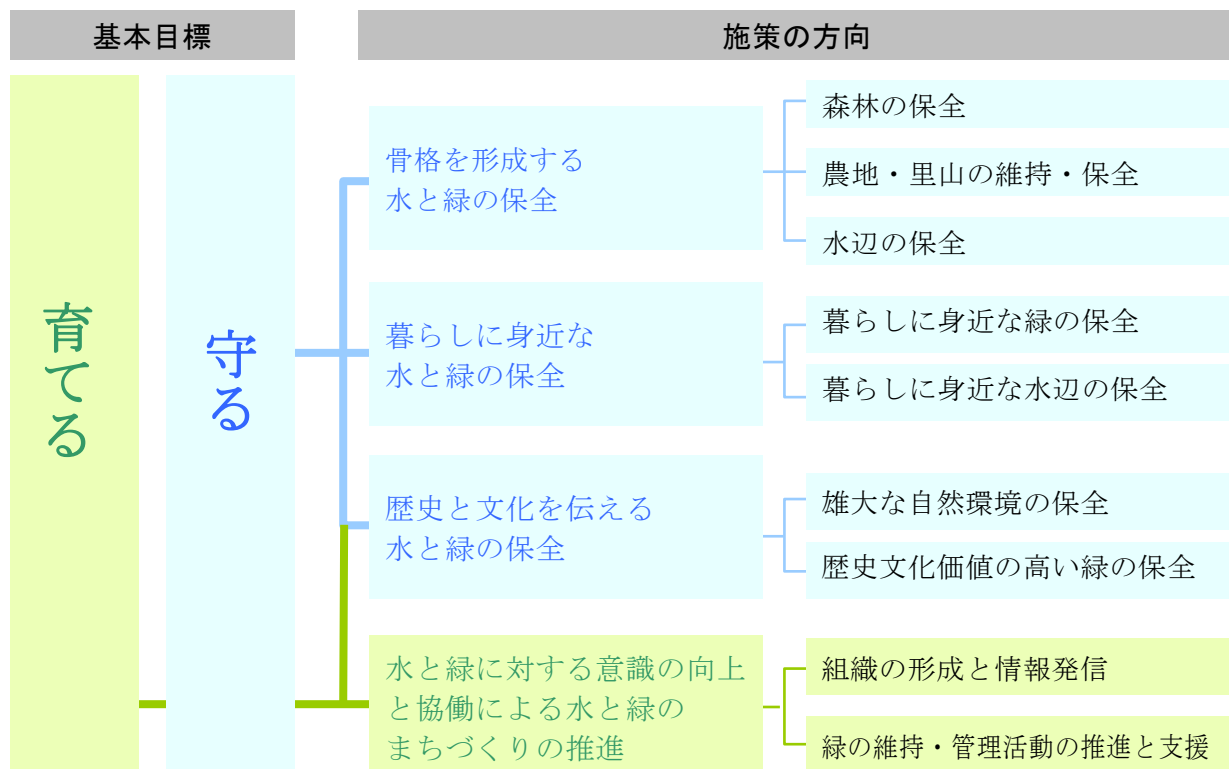
②暮らしに身近な水と緑の保全

- 市街地や集落地に近接した森林をはじめ、良好な都市環境を形成する緑や社寺、公園等の身近な緑を守ります。

③歴史と文化を伝える水と緑の保全

- 雲仙天草国立公園の美しい緑、千々石断層など、雲仙市を特徴づける雄大な自然を保全します。
- 神代小路の歴史的な街なみ、近代化遺産となる旧小濱鉄道跡の緑のトンネル等、歴史・文化を伝える水と緑を保全します。

(2) 施策の基本体系



※P39「施策の体系図より抜粋」

3-2 水と緑を『守る』ための施策

(1) 骨格を形成する水と緑の保全

①森林の保全

- ・雲仙天草国立公園を有し、市域の大部分が森林を占める本市においては、「自然環境の保全」を基軸とした土地利用を進めます。そのため、国立公園、保安林、地域森林計画対象民有林、風致地区等により森林や草原など緑豊かな自然景観の積極的な保全を図ります。
- ・森林のおかれている自然的・社会的・経済的諸条件を踏まえ、水源かん養、山地災害防止、土壌保全、快適環境形成、保健・レクリエーション、文化機能等の多面的な機能を高めるため、森林の保全とともに適正な整備・管理に努めます。



雲仙の紅葉

②農地・里山の維持・保全

農地・里山の保全

- ・雲仙市は長崎県内有数の農業地帯であり、本市の基幹産業となっています。また、雲仙市には農林水産省の日本の棚田百選にも選定された千々石の岳地区の棚田など、地域特有の景観を形成する重要な農地、里山が多くあります。

そのため、これら美しい農地、里山の保全を図るため、農業振興地域整備計画等により適正な管理・保全を図ります。

ただし、都市的土地利用を誘導する地区については、都市計画マスタープランや市政策等との整合を図りながら、適正な土地利用を進めます。

- ・千々石の岳地区の棚田については、雲仙市景観計画における景観重点区域候補地として景観の維持・保全を推進します。

また、地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観特性を持った地区であることから、文化的景観への指定の検討を進めます。



岳地区の棚田



岳地区の棚田での田植え
※専門学生の食の生産現場の実体験

農地・里山の維持

- ・豊かな農業環境を維持していくためには、耕作放棄地の問題をはじめ、農業従事者の高齢化や後継者不足、獣害対策など多岐にわたる問題があります。そのため、観光農業を通じた農村地域の活性化、市民農園や貸し農園等の利用による休耕地の利活用など、良好な農地の保全に努めます。



南串山の棚畑

③水辺の保全

海岸部の自然景観の保全

- ・雲仙市は、変化に富んだ海岸線や半島など優れた自然景観に恵まれています。特に、これら海辺の自然は、雲仙の美しい海岸線の景観や各所から見える美しい眺望を形成し、海に囲まれた地形は、雲仙市の景観を形成する上で重要な骨格となります。そのため、美しい景観と海岸域を守るため、自然公園法や森林法等に基づき周辺の自然環境と調和した海岸の保全に努めます。



千々石海岸

海岸松林や国崎半島等の海岸保全

- ・海岸松林については、美しい自然景観を構成するだけでなく、防潮、防風機能により住宅地や農地を守っています。しかし、松くい虫による松枯れや管理不足、ゴミの投棄などにより、環境が悪化しています。そのため、松林の保全と再生を図るため、防虫対策や維持管理に関する検討を進めます。
- ・千々石海岸は、砂浜と背後の松林が美しい海岸線と海食崖の続く景観が美しい湾であり、日本自然百選、白砂青松百選に選ばれた景勝地です。加えて、夏は海水浴場として賑わうなど、レクリエーションの場として活用されています。しかし、近年砂浜の浸食被害や松林の維持・管理に関する課題も生じています。そのため、松林の保全と再生に向けた検討や美しい海岸景観の保全に向けた検討を進めます。



千々石海水浴場

- ・自然公園に指定された**国崎半島**については、その北端に砂嘴（さし）状の小さな岬があり、遠浅のきれいな砂浜が分布するなど、屈曲に富んだ海岸線の景観資源を有しています。また、**島原半島世界ジオパーク**における国崎安山岩の断崖が位置するなど、地形の変化にも富んだ自然環境を有しています。加えて、キャンプ場として利用されるなどレクリエーションの場としての役割を持っています。そのため、自然公園法に基づく緑地の保全とともに、海辺のゾーンとしての活用に取り組みます。



国崎半島

河川の保全

- ・河川は、海～まち～里山～山を結ぶ緑の軸で、自然や生態系の一体性を感じる重要な緑の資源です。そこで、河川を軸としながら、本市の美しく良好な自然環境、豊かな動植物の生育・生息環境を結ぶ軸として河川環境の形成を図ります。
- ・主要な河川の整備にあたっては、河川管理者が定める各々の水系の河川整備基本方針や、地域の意見等を踏まえて定める河川整備計画等に基づき、引き続き河川区域の保全を図ります。特に、親水性に配慮した取組みにより地域住民が水に親しみやすい環境を創るとともに、雲仙市が持つ水の豊かさ・美しさを意識できる取組みを推進します。
- ・河川をはじめとした水辺環境は、様々な動植物の生育・生息の場でもあることから、生活排水対策など、水質も含め良好な水辺環境の保全に努めます。
- ・ホタルが生息できる環境の創出に向けて、豊かな自然環境や景観を保全する取組みを推進します。

整備前



整備後



土黒川

「ふるさと輝くみんなの水辺づくり事業」
（資料：長崎県 HP※ながさきの水辺）



千々石川

（２）暮らしに身近な水と緑の保全

①暮らしに身近な緑の保全

身近な緑地（風致地区）

- ・市街地内の樹林地もしくは樹木に富む地区や水辺などのうち良好な自然景観を有する地区については、風致地区や景観計画を踏まえ、良好な都市環境の形成を図ります。

特に、千々石海岸周辺、猿葉山周辺、雲仙千々石線沿道および橘公園周辺については、それぞれ千々石海岸風致地区、猿葉山風致地区、雲仙登山道風致地区および城山風致地区として既に都市計画決定されており、今後もその風致の維持に努めます。

ただし、小浜都市計画区域の風致地区については平成１６年に見直しを行っていますが、千々石都市計画区域の風致地区については、昭和１２年の指定当初のままとなっています。そのため、地域によっては実情にそぐわない地区も存在しています。そこで、当初の指定目的や風致環境の状況、風致地区内の土地利用や建物利用の変遷、現在の許可基準と実際の利用状況等を踏まえ、風致地区見直しの検討を進めます。



千々石海岸



小浜町公園

身近な緑地（既存公園、社寺等の緑）

- ・市街地に近接する公園・広場の緑地については、住民の憩いやレクリエーションの場、また祭事をはじめ地域住民の交流の場としての役割を有することで、地域の緑の拠点を形成しています。例えば、橘神社が立地する橘公園などは、社寺と一体となった緑地空間として、緑豊かで歴史性に富んだ文化情報の発信地としての役割をもつなど、利用する人々による賑わいを形成しています。そのため、これら地域における身近な緑地については、公園や広場としての機能に加え、文化特性や人々の交流の場としての拠点機能の維持・保全を図ります。



橘神社

- ・市街地に残された屋敷林・社寺林や地域のシンボルとなる樹木等は、豊かな緑の資源であるとともに、まちの歴史的な成り立ちを伝える貴重な文化資源です。これらはまちの景観に風格を与える地域の特徴的な緑であることから、長崎県まちづくり景観資産登録制度を活用するなど、その保全に努めます。



鍋島邸の緋寒桜

②暮らしに身近な水辺の保全

親水性の高い河川環境

- ・生活排水対策として、定期的な河川水質調査を実施するほか、EM培養液を活用するなど、生活排水対策のより一層の促進を図ります。

身近な水辺の保全

- ・雲仙市には雲仙の伏流水が街中のあちこちから湧出し、今も生活用水として大切に守られています。これら、湧水は市街地の良好な水辺環境としてその保全を図ります。



千々石川

（３）歴史と文化を伝える水と緑の保全

①雄大な自然環境の保全

- ・大宝元年（701年）の満明寺の開創をはじめ、約1300年に渡り多くの人に認められてきた雲仙岳の歴史資源を活かし、その豊かな緑を保全します。
- ・昭和9年に日本初の国立公園に指定された雲仙天草国立公園については、雲仙岳周辺、諏訪の池周辺などの優れた自然環境の保全をはかるとともに、外国人避暑地として栄えた歴史豊かな街なみや緑の景観他、経済産業省の近代化産業遺産に認定された雲仙ゴルフ場等の歴史豊かな緑を積極的に保全を図ります。
- ・千々石断層周辺や猿葉山周辺などの良好な緑の空間については、自然公園法や景観計画等に基づき、国立公園等と一体となった自然景観の保全を図ります。



国立公園内にある雲仙ゴルフ場

②歴史文化価値の高い身近な緑の保全

- ・重要伝統的建造物群保存地区に指定されている神代小路については、その周辺を含めて一体的に景観の保全・向上を図ります。
- ・市内に数多く残る遺跡等の歴史的資源については緑豊かな遺跡景観の形成に努めます。
- ・小浜町の“緑のトンネル”は、小浜～愛野間を結ぶ旧小濱鉄道跡で、春から夏にかけて緑美しい景観を創出するなど、経済産業省の近代化産業遺産に認定された地区です。一方で、道路が狭隘で管理されていない樹木が交通環境を阻害するなどの問題も発生しています。そのため、歴史的価値を有する史跡と緑が融合した環境の保全と交通利便性とのバランスを考慮しながら、緑の適正な保全・管理に努めます。



緑のトンネル

（４）水と緑に対する意識の向上と協働による水と緑のまちづくりの推進

①組織の形成と情報発信

緑のまちづくりにむけた情報発信

- ・雲仙市の緑の取組みについては、本市が持つ貴重な緑を身近なものとして意識し、緑の恩恵を受けながら生活しているということを認識する事が重要です。その中で、緑を保全する取組みは、本計画の基本となる取組みであり、保全や活用、創出を通じて緑に対する意識を高めていく事が重要です。
- ・緑は地球温暖化の原因である二酸化炭素などの温室効果ガスを固定・吸収するなど、地球規模の環境においても大変重要な役割を担っています。また、緑は多様な動植物が生息・生育する場所を提供しています。そのため、緑が持つ機能や重要性を市民が認識できるよう、情報発信、協働のまちづくり等、様々な活動を通じて、緑の意識を高めます。



牧場の里あづま

②緑の維持・管理活動の推進と支援

緑の維持・管理活動の育成

- ・森林や樹林地の良好な生育環境を維持していくため、市民や事業者の参加を促し、市民・事業者・行政が一体となって森林保全を進めていける意識啓発や参加の機会を設けます。
- ・緑のまちづくりに関する市民団体や関係機関との連携のもと、雲仙市固有の生物・生育環境の確保や郷土種の積極的な保全を図ります。
- ・美しい海岸づくり、水と親しめる場の創出のため地域住民等との連携による漂着ゴミ撤去作業、河川の清掃活動等に取り組めます。
- ・里山については、雲仙の原風景となる緑の環境であるとともに、季節の表情を見せてくれる大切な緑です。こうした里山を保全するためには、土地所有者・管理者のみならず市民の協力も必要です。そのため、市民一人ひとりが里山の環境や美しさを感じ、その保全や維持管理活動に参加できる機会の創出に努めます。
- ・緑の維持管理を進めるため、市民団体・NPOなどの緑に係る市民活動の支援・育成を図ります。



千々石海岸の清掃



緑の少年団

雲仙市の緑化の維持・管理活動の支援

- ・森林の保全、また荒廃した森林の再生においては森林再生のための植樹や伐採、人工林に侵入した竹の除去活動に対するボランティア活動を推進します。

特に、長崎県森林ボランティアセンターとの連携を図り、市民・事業者・行政が相互に協力しながら、市や県の豊かな森林を未来へ繋ぐ一体的な取り組みを進めます。

- ・長崎県等と連携しながら地元木材を利用した住宅補助制度を活用するなど、森林整備と森林資源を活用した林業の再生及び地域産業の再生と森林の保全を進めます。
- ・森林での自然体験が楽しめるようなイベントを積極的に開催するなど、森林資源の大切さを学べる機会を設けます。
- ・耕作放棄地の解消や再生及び市民による農地の維持管理方策及びその支援等についても検討します。加えて、グリーンツーリズム等の農業体験など、地域の学校、都市部及び関係機関との連携による維持管理方策について検討を進めます。

身近な緑の維持管理

- ・まちの顔となる緑、歴史的な緑、まちなかの身近な緑については、その緑の重要性について、広く市民へ発信するとともに、市民活動等との連携を通じて、緑の保全を進めます。
- ・特に、歴史的に重要な地区の緑の保全については雲仙市景観計画における景観重点区域の指定を検討するなど、法令に基づく緑の保全に努めます。



長崎県森林ボランティア支援センター



温州みかん狩り※農業体験



岳地区の棚田

4. 水と緑を『創る』ための取組み

4-1 水と緑を『創る』ための基本方針

(1) 基本方針

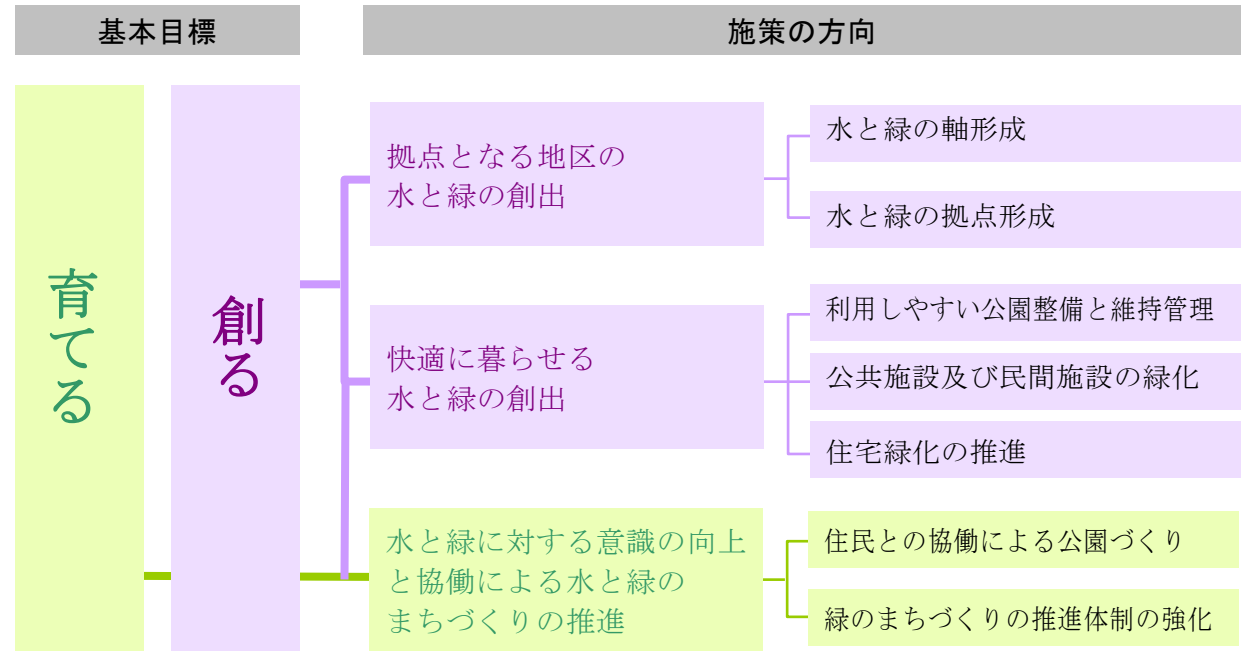
①拠点となる地区の水と緑の創出（水と緑が潤う特徴あるまちづくり）

- 雲仙温泉、小浜温泉、千々石海岸に近接する市街地など、それぞれの地区の特徴を活かし、雲仙の交流拠点に相応しく、訪れたくなる水と緑のまちづくりを進めます。
- 運動公園やキャンプ場など、訪れる人が自然や人と交流する、水と緑の拠点形成を進めます。

②快適に暮らせる水と緑の創出

- 各地区が持つ特徴を活かし、水と緑が潤う快適な住環境を形成します。
- 子どもが遊び、学ぶ事が出来る身近な公園を形成します。
- 公共施設、民間施設の緑化や道路沿道の植樹等、市街地の緑のネットワークを形成します。
- 市街地や集落地を流れる河川や湧水など、親水空間を保全します。

(2) 施策の基本体系



※P39「施策の体系図より抜粋」

4-2 水と緑を『創る』ための施策

(1) 拠点となる地区の水と緑の創出

① 水と緑の軸形成

まちなかの水と緑の軸形成

- ・市街地に身近な河川や海岸においては、市民が身近に水と親しめる親水広場の整備や遊歩道の整備を進めるなど、水と緑とまちを結ぶ回遊軸の形成を図ります。
- ・雲仙らしさ、また地区固有の特性を活かした街路樹の整備を進め、観光拠点、緑の拠点間を結ぶ、水と緑とまちを結ぶ回遊軸の形成を図ります。

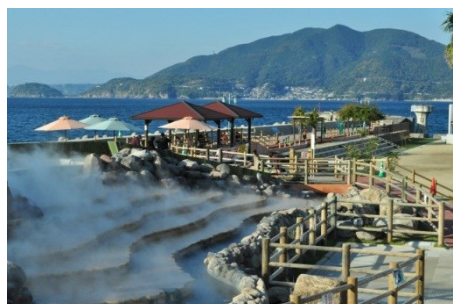


金浜眼鏡橋

② 水と緑の拠点形成

観光拠点と連携した水と緑の整備

- ・小浜温泉の市街地周辺には、ほっとふっと105をはじめとした小浜マリンパーク、またジャカランダ通りなど、自然、景観、文化特性に優れた緑が多く集積しています。また、観光地としての役割を担っていることから、雲仙市の緑の拠点地区として、緑の回遊性や地区特有の緑の魅力を充実させます。
- ・雲仙温泉については、周辺の緑・自然環境と調和した魅力的な市街地環境を形成していることから、その魅力を維持し、さらに高めていく事に努めます。
- ・その他、多比良港、千々石市街地など、各地域の中心となるまちなかの市街地や拠点については、雲仙らしい緑の空間の創出を図ります。



ほっとふっと105



雲仙温泉街

自然と触れあうレクリエーション拠点の形成

- ・千々石海岸、国崎半島など、自然の海岸が残る地区については、自然公園としての機能に加え、レクリエーションの場としての活用を図ります。
- ・みずほの森、諏訪の池等のレクリエーション施設については、水や緑と親しめる場として、現存の自然を保全しながら、憩い、遊び、健康づくりの場として利用促進を図ります。

また、保安林をはじめとした森林や野鳥や昆虫等の生物と触れ合える場として、学習、体験の場としての活用を図ります。



みずほの森公園

レクリエーション拠点となる大規模公園

- ・百花台公園、みずほすこやかランド、遊学の里くにみ、愛野運動公園など、本格的な運動施設や多目的広場等を有する規模の大きい公園については、レクリエーション拠点としての役割に応じた機能の強化を図ります。
- ・また、これら大規模な公園は、防災拠点としての役割も担うことから、安全・安心な施設の充実に努めます。百花台公園は、雲仙市を代表する拠点公園であり、今後もその整備・活用に努めます。



みずほすこやかランド

まちの景観づくり

- ・市街地を取り囲む風致地区や良好な緑地を保全するとともに、雲仙市景観計画と連携した施策により、魅力的な都市景観の形成を目指します。
- ・神代小路をはじめとした歴史的な街なみ、橘神社等の歴史・文化価値の高い神社、公園、城址を活用しまちや地域の拠点となる緑を創出します。
- ・市街地に点在する昔ながらの風情を残す屋敷林、社寺林及び景観性の高い名木等については、その保全を図るとともに、ホームページなどで広く市民に紹介し、活用策について検討します。



岩戸神社

田園景観づくり

- ・市街地を取り囲む風致地区や良好な緑地を保全するとともに、雲仙市景観計画と連携しながら、魅力的な田園景観の形成を目指します。



岳地区の棚田

（２）快適に暮らせる水と緑の創出

①利用しやすい公園整備と維持管理

利用しやすい公園整備と適正な管理

- ・市民が身近に利用できる公園等の充実を図るため地域の公園緑地の整備状況や市街地の状況に応じて、公園の適正配置や広場等の有効利用を進めます。
- ・子育て環境の充実をはじめ、誰もが利用しやすい公園の整備に向けて、公園のバリアフリー化、遊具等の適正な維持管理に努めます。



みんなの広場公園

安全・安心な公園づくり

- ・公園や緑地は、地震や水害などの災害時の一次避難場所、火災時の延焼防止の緩衝帯としての防災機能を担っています。そのため、地域防災計画との連携を図りながら、広域避難地の確保、地域単位の防災拠点の確保など、公園や緑地の有効活用を図ります。
- ・公園内での死角を排除するような施設の配置計画や見通しの効く植栽管理などにより、安心して利用できる公園づくりに努めます。



百花台公園

公園計画の見直し・推進

- ・長崎県が整備を進める**百花台公園**については、その完成に向けて、引き続き県との調整を進めます。
- ・**小浜町公園**は、一部供用開始されていますが未整備区域が多く残っています。特に、当該公園は傾斜のきつい山間部に指定された公園で、整備を進めていくためには多くの資金と期間を要する事となります。しかし、現在の土地利用や周辺の公園の配置、また市の財政や今後の人口減少など、本市の状況を考慮した場合、従来の方針を見直し新たな都市公園のあり方を検討する事も必要となります。そこで、当該公園については、人口減少、将来動向を見据え、現時点の必要性を再評価し、都市計画の廃止も含め、都市計画公園の見直しを進めます。



小浜町公園

②公共施設及び民間施設の緑化

公共空間・公共施設の緑化

- ・雲仙市は、すばらしい緑の環境に囲まれた街なみを形成しています。このような雲仙市の緑の特性を活かすため、主要な道路、河川、港湾等の公共空間について、緑の確保と緑の質の充実に努めます。
- ・小中学校は、公園緑地と同様に地域のオープンスペース、災害時の避難場所をはじめ、地域の拠点としての役割を持っています。しかし、人口減少の中で学校の統廃合や管理について多くの課題を持っています。そのため、公共公益施設については、地域の人々の集まる場、防災、レクリエーション、その他公共・公益に資する場として、多面的な利用に努めます。



夕日の広場公園



緑のカーテン

民間施設の緑化推進

- ・景観計画との整合性を図りながら、市街地の緑化を推進し、質の高い緑の確保と良好な市街地環境の形成に努めます。

③住宅緑化の推進

- ・地域住民の緑地の保全・創出に対する意識の高い地区においては、住民との協働による緑化や緑地の保全に向けた取組みを進めます。
- ・住民との協働の取組みのもと、個々の住宅の生垣づくりや植樹に対する支援制度を検討するなど、緑化を推進します。



雲仙温泉街

（３）水と緑に対する意識の向上と協働による水と緑のまちづくりの推進

①住民との協働による公園づくり

市民との協働による魅力的で質の高い公園づくり

- ・地域住民が利用しやすく、憩い・楽しめる公園づくりを進めるため、公園の整備や維持管理において、市民や事業者が参加できる機会を創出します。



公園・緑地の管理運営の充実

- ・市民活動団体や事業者の持つ多様な管理運営手法を生かす指定管理者制度等の導入を検討するなど、公園の管理運営を充実させます。
- ・緑の活動団体との連携により地域に密着した公園管理や公園内の緑の管理を推進します。
- ・公園や緑の管理にあたっては、緑に関する活動団体をはじめ、緑に関わる市民団体や市民への啓発活動、学習機会の提供などを行い、緑に対する理解を深めるとともに活動に関する支援を行います。

②緑のまちづくりの推進体制の強化

- ・緑のまちづくりを進めるため、国や県などの関係機関との連携を図るとともに、庁内組織を設けるなど、緑のまちづくりの推進体制の構築に努めます。
- ・これら組織は、市民への広報活動や啓発活動の推進母体として運営し、市民協働による緑のまちづくりの連携を育みます。



5. 水と緑を『感じる（触れ合う）』ための取組み

5-1 水と緑を『感じる（触れ合う）』ための基本方針

(1) 基本方針

①観光や交流に向けた水と緑の活用

○雲仙天草国立公園が持つ魅力的な自然、島原半島世界ジオパークの自然景観や地形・地質遺産を活用し、水と緑と人との触れ合う場の特性を高めます。

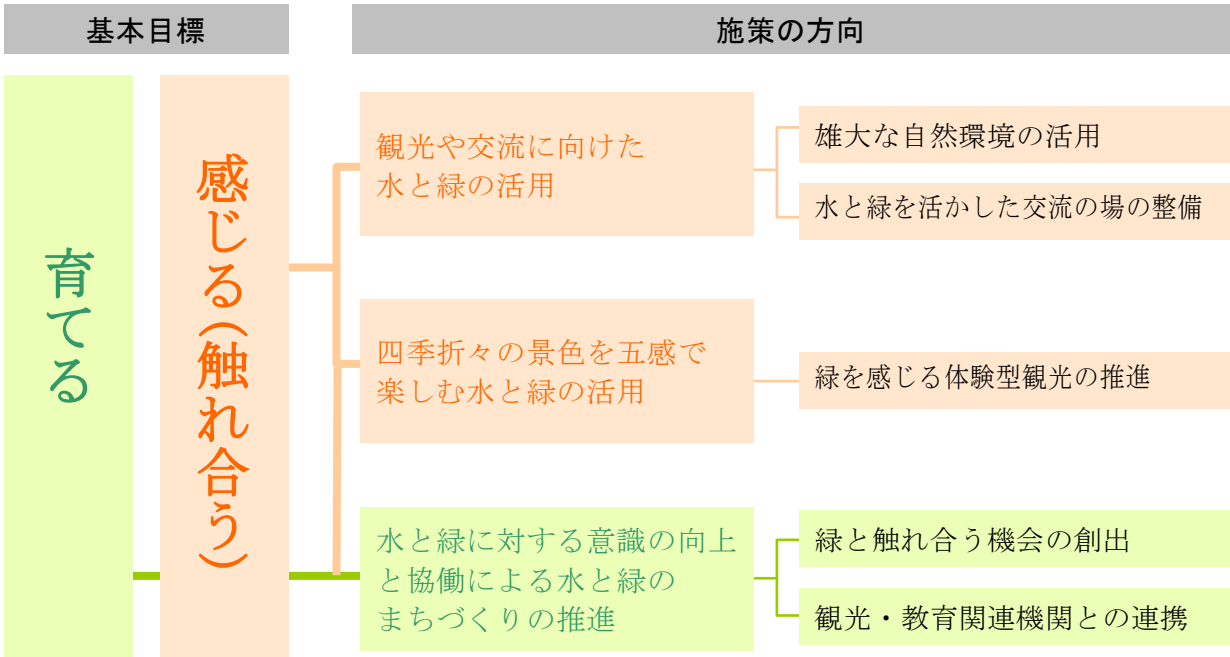
②四季折々の景色を五感で楽しむ水と緑の活用

○雲仙岳の眺望、橘湾の夕日、有明海の景色など、雲仙市がもつ雄大な自然を活かし、海・まち・丘陵地から山間部を望む景観、海を望み楽しむ空間を創出します。

○南串山の段々畑、愛野地区のジャガイモ畑など、雲仙の生業（農の景観、原風景）の景観を守ります。

○グリーンツーリズム・ブルーツーリズムなど、雲仙市の緑を活かした体験プログラムの充実を図り、水と緑と触れ合う機会を創出します。

(2) 施策の基本体系



※P39「施策の体系図より抜粋」

5-2 水と緑を『感じる（触れ合う）』ための施策

（1）観光や交流に向けた水と緑の活用

①雄大な自然環境の活用

雲仙天草国立公園

- ・雲仙は昭和9年にわが国で最初の国立公園に指定されました。昔から自然が大切に守られてきた雲仙は、自然の大図鑑、野鳥や高原植物の宝庫となっています。このような、雲仙ならではの自然・歴史・文化の活用を図るため、関係機関との連携のもと、体験学習、滞在型観光へつなげる取組みを推進します。
- ・島原半島のどこへでも気軽にアクセスできる雲仙の立地を活かし、国内外から訪れる人に、島原半島の魅力を紹介し、周遊・滞在の旅へと誘う観光地としての整備を進めます。



ミヤマキリシマ

島原半島世界ジオパーク

- ・約430万年前に起きた海底火山の噴火をはじめ火山活動によってできた島原半島は、美しい景観と豊かな大地が創りあげられ、人々によって様々な文化や歴史が生み出されています。そのような背景の中で、雲仙市を含む島原半島は、「世界ジオパーク」に日本第1号で認定されました。そこで、関連機関と連携しながら、様々な体験学習、イベント及び観光資源として活用を図ります。
- ・自然景観・地形として価値の高いジオサイトが分布する地区については、その地区が持つ歴史や自然の特性と連携しながら、緑の創出や緑のイベント活動等を一体的に推進します。

※ジオサイト:ジオパークの見どころのこと。ジオサイトの多くは、素晴らしい自然景観(地形)や地層、岩石、湧水、温泉、化石などが存在する場所が指定



ジオサイト 雲仙地獄地帯
※原生沼から旧八幡地獄、八幡地獄にかけて、岩石が白くなった地帯。かつての噴気活動がうかがえる



ジオサイト 千々石断層
※落差100mの断崖。この断層の南側の領域が沈み込み、千々石湾を形成



ジオサイト 千々石カルデラ
※橘湾は、千々石断層や金浜断層で落ち込んだ、構造的陥没地形と言われる

眺望景観

- ・雲仙市は、千々石海岸、小浜温泉街、国崎半島の海岸沿いの市街地の他、山間部においても夕日をはじめとした美しい眺望を望める場が多く存在しています。そのため、景観計画等と連携しながら、これら美しい雲仙の眺望景観の保全に努めます。



千々石海岸から望む夕日

②水と緑を活かした交流の場の整備

- ・雲仙市には観光的に魅力ある自然景観や植物群落を有する森林、キャンプ場や森林公園等の施設を伴う森林が多くあります。そのため、市民の保健・教育的利用等に適した森林は、保健・レクリエーション機能の維持増進を図る森林として保全・整備します。



諏訪の池キャンプ場

- ・普賢岳、国見岳、妙見岳の一带は、雲仙天草国立公園の特別保護区に指定され、美しい植物、珍しい鳥獣類など、豊かな自然が守られています。その中で、九州自然歩道や雲仙普賢岳新登山道は、雲仙が持つ四季折々に奏でられた大自然と触れ合える場となります。そのため、この自然を守ることを基本としながら、自然と触れ合える場として、その機能の充実を図ります。



雲仙市の野鳥
※ジョウビタキ、キビタキ、オオルリ

絹笠山



高岩山



野岳



九千部岳



妙見・国見 普賢岳



雲仙登山ガイド(雲仙温泉観光協会)

(2) 四季折々の景色を五感で楽しむ水と緑の活用

① 緑を感じる体験型観光の推進

- ・島原半島世界ジオパーク等の自然環境を活用した体験プログラムや、温泉を活用したヘルスツーリズム、農水産業と連携した“食”の体験など、雲仙市の緑を活かした体験プログラムの充実を図ります。特に、雲仙が持つ自然・歴史・文化などの地域固有の資源を活かし、観光と連携する事で、自然との交流の場の創出や本市を訪れる人の増加を目指します。
- ・上記体験プログラム、滞在型観光を通じて、雲仙市の自然環境や歴史文化に触れ、地元の人々との交流を楽しむことを通じて、雲仙市の緑の保全や育成、また地域の活性化へつなげます。
- ・体験プログラムの舞台となる、歴史や街なみ、恵まれた自然眺望など景観資産を活かした観光ルートの開発や充実に努めます。
- ・体験プログラムについては、地域の人々との連携や活動する人が非常に重要となります。そのため、この活動を通じて、担い手の育成や活動に対する支援を進めます。



植物観察ツアー※体験型観光



茶葉摘み※農業体験

(3) 水と緑に対する意識の向上と協働による水と緑のまちづくりの推進

① 緑と触れ合う機会の創出

緑のイベント等の充実と開催支援

- ・雲仙天草国立公園の自然景観、島原半島世界ジオパークの雄大な自然をはじめ、身近に広がる魅力的な緑に対する愛着や関心を深めるため、各種イベントなどを実施します。また、昔からある緑の祭りやイベントについても、団体や住民と協力しながら、その維持につとめ、緑に触れ合う機会を創出するとともに、市民によるイベントや祭りなどに対する支援を行います。

緑の広報活動の充実

- ・緑に関する情報を広く市民へ提供するために、「広報うんぜん」やホームページへの掲載など、積極的な情報発信に努めます。

■平成26年4月1日から

雲仙市景観計画がスタートします！

私たちのまちに暮らす皆様から「景観、風情を守り、残していくために、市では雲仙市景観計画を策定し、今年4月1日より計画がスタートします。
計画が施行されると一定規模以上の建築物を建てたり、改築する場合などには、届出が必要となります。

景観計画とは…
雲仙市には、雲仙市を代表とする豊かな自然環境、神代小国地区に見られる歴史的景観など多くの景観資産があります。その（雲仙市ならではの風景）を守り育て、次の世代へ伝えていくために、市の景観まちづくりに対する基本的考え方をまとめたものです。

対象となる区域は…
雲仙市全域が対象となります。

届出が必要な行為とは…
以下のような景観、行為について、届出が必要となります。

行為	規模	行為の種類
建築物	高さ13mを超えるもの または 床面積1,000㎡を超えるもの	新築、増築、改築もしくは修繕、外観を変更することとなる修繕など（修繕、模様替えもしくは色彩の変更をいう。）
工作物	高さ13mを超えるもの	新設、増築、改築もしくは修繕、外観を変更することとなる修繕など（修繕、模様替えもしくは色彩の変更をいう。） ただし、地下に設ける工作物の建設、仮設の工作物の建設など、農業または林業を営むための工作物の建設などを除く。
開発行為	開発区域の面積が 3,000㎡以上のもの	都市計画法第4条第12号に規定する開発行為。

詳しくはお問い合わせください。



■お問い合わせ 観光物産まちづくり推進課（☎38-3111）

広報うんぜん
※雲仙市景観計画のお知らせ

緑の表彰制度等の充実

- ・緑の活動に関する意識を高めるため、緑の保全、創出または普及に関し、顕著な功績があった個人や団体の表彰制度を検討します。

緑と人との触れ合いの場の充実

- ・誰もが主体的に、また気軽に緑を守り、育て、感じる取組みに触れ合えるよう、緑と触れ合う場の提供を図ります。



雲仙観光ホテル
※長崎県まちづくり景観資産

②観光・教育関連機関との連携

観光関係団体との連携

- ・観光関係団体、農林水産業等の他産業団体との連携を強化し、観光の推進に向けて雲仙の緑の活用を図ります。
- ・観光ガイドやインストラクターの育成と技術の向上を図り、体験プログラム等での活用を推進します。



ジオパークサポーター講座の様子
(島原半島世界ジオパーク HP)

地域や教育機関との協働の取組み

- ・環境活動に取り組むNPO等と連携し、学校や公民館等での環境教育を進めます。
- ・次世代を担う子ども達の緑を大切にする心を育むため、学校や地域と連携しながら、子ども会等による緑化活動や清掃活動といった取組みを進めます。



土黒川の清掃活動①



土黒川の清掃活動②